

第7期 神戸市立図書館協議会のまとめ

引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組む一方で、図書館サービスを途切れることなく提供するため、時代に合わせた行事の開催などに取り組み一定の評価をいただいた。また、相次いで決定した新館整備状況のご報告や、新図書館システムの導入のご報告など、図書館を取り巻く状況に大きな変化が訪れた第7期となった。

【開催記録】

	開催日	報告事項	協議事項
第1回	令和2年 12月17日	(1) 令和2年度神戸市立図書館事業実績 (4月～11月) (2) 神戸電鉄鈴蘭台駅構内返却ポスト設置 (3) 名谷図書館の開館予定 (4) 電子図書館の本格実施 (5) 新垂水図書館基本方針(案)意見募集実施 について	会長、副会長の選出
第2回	令和3年 8月3日	(1) 令和2年度市民満足度調査結果について (2) 名谷図書館開館後の状況について (3) 電子図書館の実施状況について (4) 令和2年度利用実績及び令和3年度見込み について (5) 令和3年度事業計画について (6) 新垂水図書館について	令和2年度神戸市立図書館事業 評価(案)について
第3回	令和4年 2月8日	※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として 中止	
第4回	令和4年 8月23日	(1) 令和3年度市民満足度調査結果について (2) 令和4年度事業計画について (3) KIITO三宮図書館について (4) 新館整備状況 (5) 新図書館システムの導入	令和3年度神戸市立図書館事業 評価(案)について

【委員名簿】

順不同・敬称略 ◎は会長、○は副会長

(任期：令和2年9月12日～令和4年9月11日)

区 分	氏 名	役職等
学校教育関係者	山崎 悦子 (やまさき えつこ)	神戸市立小学校教育実践研修図書館グループ 代表 (成徳小学校校長)
	※令和3年6月16日～ 元村 英介 (もとむら えいすけ)	神戸市立小学校教育実践研修図書館グループ 代表 (水木小学校校長)
	河島 正和 (かわしま まさかず)	神戸市立中学校教育実践研修図書館グループ 代表 (長坂中学校校長)
	※令和3年6月16日～ 川原 耕一 (かわはら こういち)	神戸市立中学校教育実践研修図書館グループ 代表 (舞子中学校校長)
	※令和4年6月1日～ 石塚 裕司 (いしづか ゆうじ)	神戸市立中学校教育実践研修図書館グループ 代表 (舞子中学校校長)
社会教育関係者・家庭教育の向上に資する活動を行う者	一居 明子 (いちい あきこ)	「夕やけ文庫」所属
	樋口 常子 (ひぐち つねこ)	神戸市婦人団体協議会理事
	○桜間 裕章 (さくらま ひろあき)	神戸市立博物館調査役
市民代表	北川 章子 (きたがわ あきこ)	ネットモニターより選考
	田中 洋子 (たなか ひろこ)	ネットモニターより選考
学識経験者	立田 慶裕 (たつた よしひろ)	神戸学院大学人文学部教授
	齋藤 誠一 (さいとう せいいち)	神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授 ※令和4年4月1日～ 大阪信愛学院大学教育学部教授
	◎湯浅 俊彦 (ゆあさ としひこ)	追手門学院大学国際教養学部教授

令和2年度神戸市立図書館 事業評価

令和3年8月
神戸市立図書館協議会

令和2年度神戸市立図書館事業評価

神戸市立図書館協議会は、事務局から提出された令和2年度の図書館サービスの自己評価について協議を行い、「令和2年度 神戸市立図書館事業評価」として公表する。

評価の基準

- A：計画どおり実施し、一定の成果があった
- B：概ね計画どおりだが、不十分な点や課題が残った
- C：不十分な点や課題が多く、計画どおりにいかなかった

令和2年度の取組項目と具体的取組及び評価項目

※「印」印＝「コロナ時代に開催するための工夫」

図書館事業評価一覧	
令和2年度の目標と行動計画	
1 資料の充実	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 学習拠点としての資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学び直しに役立つ基本的な資料の買直し（分野ごと） <ul style="list-style-type: none"> 今年度も、引き続き学びに役立つ基本的な資料の購入を行っている 『百人一首を読み直す2』（兵庫図書館） 『一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書 経済編』（西図書館） 『知識ゼロからの短歌入門』（垂水図書館）等 特に、それぞれの館の特色や行事（イベント）等と連携した資料の購入等を行った 『英会話 1000 本ノック ビジネス編』『一億人の英会話：話すため』（三宮図書館） 『色彩心理図鑑』『色のたのしみ』等（北神図書館） 『60 歳からはじめられるゆっくりていねい旅行英会話』等（須磨図書館） ・ 電子書籍（資格問題集等）の充実 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年1月5日から電子図書館の運用を開始した。サービス開始ということもあり、様々な分野の資料が揃うようコンテンツ購入を行った。また、図書館独自のコンテンツも配信した。 資格問題集等については、これから拡充していく予定である。 『日本の都市景観 100 選』『できるキッズ子どもと学ぶ JavaScript プログラミング入門』 『サピエンス全史』『あ・うん』『それゆけ、ジーヴス』 『ルドルフとイッパイアッテナ』『タンタンタンゴはパパふたり』等 図書館独自コンテンツ『KOBE の本棚 神戸ふるさと文庫だより』『としょびか』 ・ オンラインデータベースの追加（名谷） <ul style="list-style-type: none"> 4月より「日経テレコン21」を提供開始。 <p>(2) 地域資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域図書館の貸出用資料充実 <ul style="list-style-type: none"> 『六甲山の地理』『神戸・六甲山のチョウと食草ハンドブック』（灘図書館） 『丹生山田ガイドマップ（第2版）』（中・北・北神・新長田図書館） 『東本：新長田東エリアの物語』（新長田図書館） その他、新長田図書館ではアジア系の住民の方に合わせて、韓国文学（日本語表記あり）やアジア図書（今年度は韓国語資料（小説やガイドブック）を30冊）を購入した。 <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症関連資料の充実 <ul style="list-style-type: none"> 認知症の関連資料は多数出版されており、各館では様々なテーマを考え、資料を購入

	<p>『ボクはやっと認知症のことがわかった』（北神図書館）等、認知症の理解を深める資料や、『今日のわたしは、だれ？』『夢に住む人』（いずれも東灘図書館）等、認知症の闘病記、更には、認知症の理解について幅広い世代に伝えるために『一本の線をひくと』『おじいちゃんの手帳』『赤ちゃんキューちゃん』（「絵本こどもに伝える認知症シリーズ」1～3）（いずれも新長田図書館）等、児童書の購入も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな活字の資料の収集継続 「宮沢賢治大活字本シリーズ」等、継続購入中である。令和2年度に購入した大活字本は全館合わせて約110タイトル 約430冊。 ・電子書籍（多言語・読み上げ機能）の提供 ☞令和3年1月5日より電子図書館の運用を開始した。読み上げに適した電子書籍を中心にコンテンツの拡充を行った。 多言語の資料についてはこれから拡充をすすめる。
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しに役立つ基本的な資料は、昨年に引き続き各館で購入を行った。ユニバーサルデザインに配慮した資料についても、認知症関連資料の充実に加え、大活字本の収集を全館で進めることができた。 ・電子書籍については、サービス開始に合わせて幅広い分野のコンテンツを収集、提供することができた。バリアフリー対応のため、読み上げに適したコンテンツを積極的に収集した。 ・電子書籍の資格問題集の収集、多言語対応については、次年度以降の課題として残った。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 学習拠点としての資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しの機会を求める人は今後増えていくと予想される。こういった願いを支えるためにもニーズを予想して資料の充実を図ってほしい。 ・電子書籍の充実は急いでほしい。「学び直し」に役立つ資料については、希望する人は多いと思われるので、引き続き力を入れてもらいたい。 ・資格取得用の資料は「かんぼう」で扱っているものも積極的に取り入れてくださるとありがたい。 ・仕事の調べものなどで図書館（大阪市など）を利用している。神戸市の市立図書館で、ビジネス関連の資料やデータベースを利用できればありがたい。資格問題集と合わせ、より一層の充実を望む。 ・電子書籍の充実に関しては、図書館独自のコンテンツとしていわゆる「図書館が自前で提供し得るコンテンツ」だけでなく、神戸市の総合計画を推進するための各部局が公表している広報物、報告書、記録などさまざまな情報資源のデジタル化を積極的に推進し、本文検索可能かつ音声読み上げ可能にすることこそ、従来の図書や雑誌を中心とした閲覧と貸出業務中心とする図書館の機能と役割をDX（デジタルトランスフォーメーション）化することになると考えられる。 ・学び直しについて、分野毎とありながら、どのような分野かが不明。 電子書籍の導入は良い評価を加えたい。ただ、そのコンテンツ選択の基準を設定して欲しい。 オンラインデータベースについて、全館におけるこれまでのDB導入状況が不明。そのため、判断できない。 ・「学びなおし」のための資料の充実については、新しいものが出版されたら、古いものと入れ替えたり、新しい視点で書かれたものが増えていくのが望ましい。新しい書籍を見つけることによって、取り組みきっかけにもなるので、継続的に入れ替えてほしい。 <p>(2) 地域資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインデータベースに関して、4月より「日経テレコン21」を名谷図書館において提供したことは高く評価することができる。すべての図書館で提供するオンラインデータベースの拡充と同時アクセス数の増加がなされることが望ましい。 <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍の多言語対応についても、2021年度は積極的に取り組み、国際都市「神戸」にふさわしい電子図書館サービスを国内で率先して展開すべきであると考ええる。 ・ユニバーサルデザインに配慮した資料収集も、認知症や大きな活字資料が中心となっているが、DAISY

等の視聴覚障害関係の導入状況報告もお願いしたい。

- ・「大活字」、特に「読み上げ機能」に関しての充実は素晴らしい取り組みだと思う。このようなことを広めるために、広報紙などの字の媒体で告知するより、ラジオなどで宣伝してみるのはいかがでしょうか。本をあきらめてラジオを聞いている人の活用につながるのではないかと。

(その他全般)

- ・様々な観点から広く資料の収集が行われており、良いと思う。課題としてあげられているが、電子書籍などの今後の充実を期待する。
- ・今後は、SDGs 関連の資料の充実を期待する。

評 価

B

2 学習機会の提供（児童向けは、6 子供サービスの項へ）

評価の
ポイント
と取組
事例

☞利用者参加のイベントについては、新型コロナウイルス感染症対策として、定員の削減や会場の変更、実施時間の短縮、実施者・参加者双方マスク着用等、感染症対策をそれぞれに行った上での実施となった。（他の項目も同様）

(1) 仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供

イベント開催数 7回・参加人数 175人 展示の回数 41回

・講座、講演会、展示、その他イベントの実施

「教科書展示会」（中央・東灘・灘・兵庫・北神・新長田）6/23～7/8

「土砂災害防止パネル展」（東灘）6/27～7/3

「自殺予防週間関連展示」（全館（名谷除く））9月

「自殺対策強化月間展示」（全館（名谷除く））3月

「認知症関連展示」（中央・東灘・北神・新長田・須磨・垂水・西）9月

「古文書をよむ『神戸村文書』から見える人々のくらし展」（中央）11/13～12/16

『輝け★須磨オヤジ塾』第1回「第一歩を踏み出す」（須磨）10/15 20人

第7回「図書館の使い方」（須磨）12/10 17人

「就活セミナー『自分らしさの伝え方』（北神）11/3 6人 講師：パソコンスクールあすか

「ビジネス支援講演会『起業（ゆめ）を形に2021』」2/26 22人

「ビジネス支援展示『創業する前に知っておきたいこと』」1/30～2/28

(2) 生活の質を高める情報・機会の提供

イベント開催数 132回・参加人数 2,101人 展示の回数 433回

・講座、講演会、展示、その他イベント等の実施

「大人の朗読」（灘）9/26 15人・11/28 15人・3/27 12人

「大人のためのおはなし会」（北）11/5 32人 於：すずらんホール1階 多目的ホール

「大人のためのストーリーテリング」11/4 20人（北神） 於：北神区文化センター

「大人の楽しい朗読」（新長田）10/24 5人

「本の案内しよっ～出張図書案内」

（北）9/27 6人・2/28 5人・3/21 5人 於：鈴蘭台街の小さな図書室

（北）3/21 15人 於：神鉄鈴蘭台駅ベルスト鈴蘭台3階広場

「時代小説総選挙 2020@図書館」（兵庫）9/1～9/30 37人

好きな時代小説、作家、作品、ならびに推薦理由を自由記入欄にて回答できるアンケートを館内で配布集計し、後日館内で発表（9/24～10/11 関連図書と共に展示）

「雑誌リサイクルフェア」（中央・東灘・北・新長田）10月～11月

☞整理券配布・入場制限・会場の変更・密集を避けるように雑誌を配置

「図書館クイズ」（中央）10/16～11/15 21人

「工作教室『豆本をつくろう』（垂水）10/25 6人 於：垂水区文化センター木工芸室

「みんなでつくろう！西図書館カルタ」（西）10/27～11/23 回収数：読み札77枚 絵札50枚

「西区」「図書館」「本」にまつわる読み札と取り札を募集し、西図書館カルタを作成。

「大人の工作教室『ハレの日を飾る水引』（東灘）11/1 8人

水引細工の入門編で、あわじ結びととし袋の飾りを作成。

「世界を書くための装置 ノンフィクションの文体について」（新長田）12/5 16人

於：細田地域福祉センター（新長田図書館1階）

『日向坂46ストーリー』の著者である西中賢治氏によるノンフィクションの文体とその書き方についての講演会。

「本の修理教室」（灘）12/20 3人

「100文字小説マイクロノベルを書いてみよう」（新長田）2/20 19人

『100文字SF』の著者である北野勇作氏を招いて、ほぼ100文字でつづる「マイクロノベル」のレクチャーを受け、参加者も「マイクロノベル」を書いてみるワークショップ

「展示『Re:デザイン』（新長田）10/27～11/8

「展示『作ろう学ぼうおうち時間』（垂水）10/20～11/8

「展示『おうち時間～人間は考える葦である～』（西）10/27～11/8

	<p>☞ 「自宅でも工夫次第で楽しく過ごせる」をテーマに、一般書・児童書を展示 「ドキドキ☆秋の福袋」(須磨) 11/1～11/12 福袋と称して、図書館で選書した本を袋詰めにし、袋毎に貸出する。灘、三宮、北、北神、垂水でも同様の福袋を実施。</p> <p>【大人の福袋は半年ぶり、袋を出すたびにすぐに貸出となった。】</p> <p>「田岡さんと大きな『山 ZINE(人)』をつくろう♪」(兵庫) 10/26～2/28 利用者に、大きな一枚の紙に描かれた架空の山に付箋で山での体験や山に関する思い、情報を貼り付けてもらい、一枚の大きなリトルプレス(ZINE)を完成させる。兵庫区在住の美術家・田岡和也氏のリトルプレス(ZINE)の展示と図書館所蔵の山をテーマとした展示と共に開催。</p> <p>☞ コロナ禍の社会状況であっても、自然(山)とまちが隣り合う神戸のまちに生きる市民に、屋外であっても自然を感じさせるアート作品や本を介して、いわゆる卓上(机上)旅行気分を味わってもらう。</p> <p>「おはなしまスク」(北神) 4/19～印刷して切り取り、布マスクのひもに通すもの</p> <p>☞ 緊急事態宣言を受けて自宅待機する父親が子供に絵本の読み聞かせをしたくなるような「おはなしまスク」を企画し、図書館ホームページとFacebook、エコーラ・リラのLINEに掲載。</p> <p>「アーティスト支援『謎劇』への協力」(兵庫) 5/23 会場使用と絵本の選定</p> <p>☞ 新型コロナウイルス感染症の影響により活動場所を失ったアーティストに図書館内で「場」を提供した。(主催者より、絵本の朗読と音楽演奏、歌唱、作品解説を合わせたオンライン朗読劇ライブが配信された。)</p> <p>「おうちで楽しむビブリアキッチンクイズラリー～ホームページを回って、クイズを解こう!～」(兵庫・北・北神合同) 12/1～12/13</p> <p>☞ 自宅のできるクイズラリーをホームページ上で開催した。</p>
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言等への対応のため、中止せざるを得ない行事も多かったが、昨年度から試行錯誤してきた感染症対策のノウハウにより、それぞれ工夫しながら行事を開催した。 ・本を選ぶ時間を短縮すると同時に思わぬ本との出会いを得られる「本の福袋」は感染症対策下では効果的で、利用者にも好評であった。 ・“おうち時間”を考えるための本の紹介展示、アンケート形式による参加型展示を行うなど、生活や図書館利用の制約の中で、少しでも楽しみを提供できるよう各館努めた。 ・ホームページでのクイズラリーの開催や「おはなしまスク」の発信など、感染症対策によりICTを活用した新たな取り組みを行うことができた。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事や地域の役立つ情報・機会の提供に関して、「自殺予防対策」「認知症関連展示」についてはきわめて重要な取り組みであり、高く評価することができる。図書館の役割として、地域住民が生きていくためのさまざまな障壁を、福祉行政とは異なる立場から取り除くことが求められており、力を注ぎたい領域であると感じる。 <p>(2) 生活の質を高める情報・機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染予防対策もあって考えられた「本の福袋」はとても素晴らしいアイデアだと感じた。 ・コロナ禍でのイベント開催にはいろいろな困難があったことと思われる。「おうち時間」を考えるための紹介展示など、図書館らしい工夫を試みたことは評価できるだろう。 ・コロナ禍でもあり、参加人数が限られている企画もある。対面での参加以外に、同時にWeb視聴(Zoomなど)ができないか。(工作やお話会であれば、Zoomで受講したことがある。)夏休みや長期休暇などに、親子でWebで参加できる企画があると嬉しい。

- ・「本の福袋」がとても良い企画だと思うので、各館や様々なテーマで展開してほしい。
- ・「大人の福袋」の盛況ぶりは、図書館の新たな選書基準を鍛えるものとして評価できる。あえてタイトルや著者名を示さない偶然の中で、図書館利用者が新しい図書、新しい自己との出会いがありうるわけで、このようなスリリングな体験を大人に提供できる図書館の切り口は素晴らしい。
- ・コロナ禍の中でのイベント実施は、困難であったにも関わらず、非常に活発に行われている。特に「おうち時間」の充実を図るなど生活の質を高める情報・機会の提供は、独創的で創造的なものが多く、また各年代にわたる内容となっており、優れている。
- ・コロナ禍での制約があっても、その時の状況に合わせて開催されていたことは大変評価できるし、「本の福袋」のような企画はとても面白いと思う。今後も家で過ごす時間が増えることが予想されるので、ICTを活用したさらなる企画に期待する。

(その他全般)

- ・コロナ禍で制限される中、工夫して多様な行事、イベントを実施されていると思う。
- ・コロナ禍に対して工夫して取り組んでおられる様子がわかった。
- ・面白そうな企画をされているので、LINEなどでイベントや講座の案内をして、より多くの人に周知してほしい。(できれば、LINEで申し込みができたり、申込へのリンクを貼るなどできないか。)

評 価

A

3 関係機関との協働 (2からの抜き出し)

評価の ポイント と取組 事例	<p>(1) 行政機関との連携</p> <p>イベント開催数 7回・参加人数 145人 展示の回数 85回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉局、健康局 <ul style="list-style-type: none"> 「ウォーターサーバー設置」(全館)7月～9月(健康局) 「自殺予防週間関連展示」(全館(名谷除く))9月(再掲) 「自殺対策強化月間展示」(全館(名谷除く))3月(再掲) 「ひとやすみ」「リラックス」など各館毎の切り口で関連図書を展示。 ☞「ステイホームでも、移りゆく季節を感じたい!」など、在宅を意識したテーマを取り入れた。 「認知症関連展示」(中央・東灘・北神・新長田・須磨・垂水・西)9月(再掲) 認知症「神戸モデル」のポスターや『広報紙KOBE 9月号』の認知症特集ページを掲示。 関連チラシを配布、関連図書の展示・貸出。 ・各区まちづくり課 <ul style="list-style-type: none"> 「『シタマチコウベ』×ジュンク堂 コラボ企画」6/26 「下町選書」おすすめ本の選定(3冊) 兵庫区役所 ※シタマチコウベ＝地下鉄海岸線沿線・市街地西部地域のプロモーションサイト 「『輝け★須磨オヤジ塾』第1回「第一歩を踏み出す」(須磨)10/15 20人(再掲) 第7回「図書館の使い方」(須磨)12/10 17人(再掲) 概ね60歳以上の男性の地域活動を推進する講座 須磨区役所・須磨区社会福祉協議会等 ・文化財課、埋蔵文化財センター <ul style="list-style-type: none"> 「古文書をよむ-『神戸村文書』から見える人々のくらし展」(中央)11/13～12/16(再掲) <li style="text-align: right;">文化財課 企画展「神戸・うつりかわる町とくらし～昭和ノスタルジー」への資料協力(中央)12～3月 上記企画展にあわせた資料展示、チラシとポスターによるPR協力(西)12～3月 <li style="text-align: right;">埋蔵文化財センター イベント「ねえ、知ってる?神戸にも戦争があったんだよ」への関連資料展示、ブックリスト作成による協力(西)1/31 埋蔵文化財センター ・企画調整局未来都市政策課 ほか <ul style="list-style-type: none"> 「リノベーション・神戸(第2弾)」事業のひとつとしてオープンした名谷図書館について、プレオープンイベントを開催 「イスづくりワークショップ」(名谷)3/14 48人 名谷図書館で使用する椅子を作成するイベントを施工会社等の協力のもと開催。名谷を含む神戸市のリノベーション計画の広報パネルも展示。 「INAC神戸選手によるビデオメッセージ」(名谷)3/14 名谷図書館の開館にあたり INAC神戸レオネッサの選手から寄せられた開館お祝いのビデオメッセージをプレイベント会場にて放映。名谷図書館のWebページでも公開。 ・その他 <ul style="list-style-type: none"> 「こうべ医療者応援ファンドポスター掲示」(三宮)6/9～6/30 於:勤労会館1階ギャラリー <li style="text-align: right;">公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 『花森安治 暮しの手帖の絵と神戸』展への資料協力10/22～3/26 神戸ゆかりの美術館 ほか、神戸海洋博物館、神戸市立博物館、香川県立ミュージアムの各企画展に資料提供(中央) 「KOBE ミュージックポート～秋の音楽祭」のPRトイレットペーパー、音楽イベント専用のチラシラックを期間限定で設置(中央)10月 神戸市民文化振興財団 <p>(2) 学校園との連携 →6 子供サービスの項へ</p> <p>(3) 大学との連携</p>
--------------------------	---

イベント開催数 1回・参加人数 13人 展示の回数 4回

・神戸女子大学等、地元大学との連携イベントの開催

「インターン生のおすすめ本 POP 紹介」(須磨) 9/15～11/8

インターンシップ生6名による POP と関連本を展示 神戸女子大学

「連携展示」(中央) 10/1～10/31 神戸市外国語大学

『神戸外大教師が新入生にすすめる本』(神戸市外国語大学編)をもとに紹介本を展示

・大学が実施する地域貢献事業への支援

「多文化こどもカフェ」(新長田) 10/17 13人 於:カフェナドゥリ

多文化交流を目的とし、ホットック作り・世界の遊び・読み聞かせを実施。図書館は読み聞かせとブックリスト配布で参加。 神戸常盤大学・神戸コア教育文化センター主催

・実習やインターンシップの受け入れ

「実習」 (中央) 神戸松蔭女子大学 9/29～10/3 2人

(中央) 同志社大学 10/6～10/10 3人

「インターンシップ」(須磨) 神戸女子大学 8月 計4回(各5日間) 6人

(垂水) 県下の大学(垂水区役所経由) 8/20 5人

☞実習生にも、マスクや手洗い等、感染症対策を徹底させた。

(4) 企業との連携

イベント開催数 11回・参加人数 113人 展示の回数 4回

・ビジネス支援講演会、展示の実施

ビジネス支援講演会「起業(ゆめ)を形に2021」(中央) 2/26 22人(再掲)

ビジネス支援展示「創業する前に知っておきたいこと」1/30～2/28 38冊、パンフレット等の配布(再掲) 日本公庫神戸創業支援センター

・その他

「つなぐ“マスク”プロジェクト」(全館) 6/26～7/31

マスクの回収箱「マスクポスト」の設置(神戸市と日本郵便の連携事業)

「湊山 OPEN SCHOOL 出張図書館『湊山思い出らいぶらり～@兵庫図書館』」(兵庫) 10/31

旧湊山小学校の校舎一部解体前の最後の学校開放イベント「湊山 OPEN SCHOOL」にて、出張図書館を実施 「湊山 OPEN SCHOOL」事務局、(株)村上工務店主催

「親子で楽しむプログラミング教室」(新長田) 9/6 4回・計23人(再掲)

タブレットプログラミング体験会、スクラッチプログラミング体験会を、株式会社 mama square(講師派遣・機材準備)と共同開催。

(5) 地域団体・NPO との連携

イベント開催数 17回・参加人数 217人 展示の回数 42回

・既存の関係団体との連携継続(KFC、神戸アーカイブ写真館等)

「夏休み読書の会 ～ミンガラーバー ミャンマー～」(新長田) 7/31 8人・8/7 8人

NPO 法人神戸定住外国人支援センター(KFC)

ミャンマー出身の子供達に対して、読み聞かせとクイズラリー、館内見学を実施

「パネル展示 神戸の神社を訪ねて」7/14～10/11(東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西) 神戸アーカイブ写真館

各区別の写真パネルを借り、各館ごとにエリアを決めて展示。

「気軽に落語会」(灘) 7/19 3人・10/18 15人 楽喜(ラッキー)落語研究会

・連携先と相互に利用 PR

「企画展示 長田区 今月の主人公」(新長田) 7月～

月ごとに地元で活躍する著名人のお薦め本の展示(長田区長・児童館職員・大学教員等に

	<p>も広く依頼。地域の団体や店舗の方は下記。)</p> <p>(7月) 一般社団法人神戸コア教育文化センター代表理事 金信鏞先生</p> <p>(9月) 総合工作芸術家 だるま森+えりこ氏</p> <p>(1月) 神戸アーカイブ写真館 東充氏</p> <p>(2月) 神戸映画資料館 安井喜雄氏 田中範子氏</p> <p>(3月) 元祖平壤冷麺屋本店店長 張守基氏</p> <p>「本の案内しよっ〜出張図書案内」</p> <p>(北) 9/27 6人・2/28 5人・3/21 5人 於：鈴蘭台街の小さな図書室 (再掲)</p> <p>(北) 3/21 15人 於：神鉄鈴蘭台駅ペルスト鈴蘭台3階広場 (再掲)</p> <p>「旅」「甘い」「植物」など、毎回テーマを決め、30冊程度の図書紹介を実施。一部は図書リストにして配布。大人の居場所研究舎連携。</p> <p>「たなせいぞうこうじょう」(新長田) 10/4 29人</p> <p>長田区で活動する総合工作芸術家 だるま森+えりこによるライブペインティング。 (3段カラーボックスにペインティング)</p> <p>制作した棚は児童コーナーに設置し、著作を配架。</p> <p>☞講師が声を発したり、参加者同士で話すという必要がなく、作業している様子を自由にご覧いただくという形は、感染症対策には適していた。</p> <p>・外国人をサポートする団体との関係構築 令和2年度は既存の連携先との事業を継続するにとどまった。</p>
<p>評価</p>	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言等への対応・連携先との調整が成らず中止せざるを得ない行事もあったが、昨年度から試行錯誤してきた感染症対策のノウハウにより、それぞれできる範囲での事業を実施した。 ・「神戸セレクション」関連イベントでの地元企業との連携について、緊急事態宣言や感染状況等を注視しながら産業振興財団とイベント開催の可否を検討した結果、令和2年度の実施は見合わせるようになった。 ・新長田図書館や兵庫図書館では地域在住のアーティストや団体と新たな連携を行い、個性あふれる学びの機会を積極的に提供した。 ・名谷図書館の新規開館に合わせ、関係部局や企業と連携したイベントや広報を積極的に行った。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 行政機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が参加して、図書館の本棚や椅子などを作り、実際に図書館で使われるという取り組みは非常に良い。ぜひ、既存の図書館でもやってほしい。 ・名谷図書館における企画調整局未来都市政策課と「リノベーション・神戸(第2弾)」事業のひとつとして、「イスづくりワークショップ」を行う取り組みなどは、図書館が神戸市全体のリノベーション計画に積極的に参加している事例であり、また「INAC神戸選手によるビデオメッセージ」など、図書館が「本好き」の人だけが利用する社会教育施設というイメージを打破し、市民の仕事や暮らしに密接につながっている地域の情報センターであることを示している。 ・地元行政との連携は、非常によく行われている。 <p>(2) 学校園との連携 →6 子供サービスの項へ</p> <p>(3) 大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ受け入れなど、工夫して取り組んでおられたのではないかと思います。 ・大学との連携では地元大学とのイベントを開催し、大学が実施する地域貢献事業の支援として「多文化こどもカフェ」を行うなど、図書館として「SDGs」(持続可能な開発目標)に取り組む姿勢は、高く評価することができる。

・大学との連携では、市内の大学数から考えて不十分とみられる。内容もどちらかといえば、受け身で大学側からのものが多い。大学図書館とは、本の流通という点で関係を持っていると考えられるが、大学のアカデミックな資源（スタッフや情報源）を把握して、地域館で有効活用する必要がある。大学図書館は、地方創生、グローバル化、電子化などの課題を有し、その連携を図っていただきたい。いわゆる住民の中の専門職的資源の掘り起こしや各大学のアーカイブを利用することも視野に入れていただきたい。大学図書館の司書の人たちはきっと積極的に協力してくれると考える。

(4) 企業との連携

・企業との連携に関しては、「神戸セレクション」関連イベントでの地元企業との連携が、新型コロナウイルス感染症拡大下において、実施できずきわめて残念であったが、今後、積極的に取り組む必要があると考えられる。

・企業との連携では、他分野にわたり、かつ大企業が多いはずの神戸市のよさが見えてこない。イベント開催が中止になった問題もあるが、企業と協力することが商品販売や広報の手伝いをするということになるという視点ではなく、SDGsの観点から市民にとって有益な情報を図書館を通じて学ぶ機会の提供が必要である。

(5) 地域団体・NPOとの連携

・図書館が地域の情報発信の場となるよう、地域団体などとの連携をより強めてほしい。

・新長田図書館、兵庫図書館における地域在住のアーティストや団体との新たな連携、名谷図書館における関係部局や企業との連携は今後につながっていくと考えられる。

・NPOや地域団体との連携は、十分行われているが、できれば、NPOや各団体の発展のために、図書館に何ができるかを考えて行きたい。

(その他全般)

・(1)～(5)でまとめられた、各関連機関と連携してのイベントの内容、回数、参加人数などから、制限のある中でかなり頑張っておられるとA評価。

・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言などで連携しにくい状況だったことはよく理解できる。

・令和3年度の取り組みになるかもしれないが、東灘図書館で、地元の御影高校とのコラボ企画で、現役高校生が本を紹介した本棚と福袋が好評だと聞いた。いつも貸し出し中で人気のようだ。家族も本の選び方などに興味を示していた。ぜひ各館で地元の高校などこのような取り組みを進めてほしい。

・企画や実施数に関しては十分行われているし、内容もよいと思う。しかし、近年「多文化」の取り組みが様々なところで行われているので、バランスを考え子どもむけの「日本文化」への取り組みも必要ではないかと思う。

評 価

B

4 新たなサービスや機器

評価のポイントと取組事例	<p>(1) 図書館サービス網の拡充整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな返却ポスト設置（地下鉄三宮・花時計前駅、神戸電鉄鈴蘭台駅） 地下鉄三宮・花時計前駅は、令和2年6月30日から供用開始。 神戸電鉄鈴蘭台駅は、令和2年10月14日から供用開始。 一日平均利用冊数（令和3年3月） 地下鉄三宮・花時計前 150冊、鈴蘭台 79冊 灘 105冊、名谷 155冊、垂水 113冊 <p>(2) 快適便利な高機能機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 書籍消毒器の設置（名谷・中央）（東灘・北神・須磨は導入済み） 公衆無線 LAN の設置（北・名谷）（中央・東灘・三宮・北神は導入済み） 北図書館 令和3年1月から供用開始。 名谷図書館 令和3年3月開館と同時に設置、供用開始。 予約図書自動受取機（地下鉄三宮・花時計前駅） 令和2年6月30日から供用開始 一日平均利用冊数 81冊（利用総冊数 21,740冊） 令和3年2月3日より 置き置き期間を当初の3日間から5日間へ変更 <p>(3) ICT 技術を活用したサービスと情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子図書館サービスの本格導入 令和3年1月5日サービス開始 試行実施時と運営会社が変わったため、ログイン画面や資料の検索、蔵書内容等が一新した。大きな特徴として、試行時にはなかった日本語の読み上げ機能、視覚に障害のある方向への電子図書館利用サイト等、読書バリアフリー法の趣旨を重視したものとなっている。 また、試行時との違いとして、図書館カードの発行と同時に ID を付与しているため、電子図書館用の利用申込みは不要となった。 サービス開始は実用書 1,000冊、小説・エッセイ 400冊、絵本・子供向け読み物 600冊等、約 2,500冊、順次購入を増やし年度末には約 3,500冊に拡充した。 一日平均利用冊数 165冊（1/5～3/31 貸出合計冊数 14,175冊） 電子書籍（資格問題集等）の充実（再掲） 令和3年1月5日から電子図書館の運用を開始した。サービス開始ということもあり、様々な分野の資料が揃うようコンテンツ購入を行った。また、図書館独自のコンテンツも配信した。 資格問題集等については、これから拡充していく予定である。 『日本の都市景観 100選』 『できるキッズ子どもと学ぶ JavaScript プログラミング入門』 『サピエンス全史』 『あ・うん』 『それゆけ、ジーヴス』 『ルドルフとイッパイアッテナ』 『タンタンタンゴはパパふたり』 等 図書館独自コンテンツ 『KOBE の本棚 神戸ふるさと文庫だより』 『としょびか』 自動貸出機の利用促進 ☞ カウンターの職員と接する必要がないため、感染症対策に有効であり、ポスターや利用ガイド等の行事で利用を呼びかけている。 「図書館べんりガイド」（須磨）10/18 33人・10/25 51人 ☞ 今年はできる限り接触時間を短く、シンプルな案内を心掛けた。 「知っ得としょかん」（新長田）10/27～11/8 14人
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 返却ポストについては、新たに2か所設置し、市内合計5か所となった。利用冊数は増加傾向にあり、利便性を向上させたといえる。 予約図書自動受取機について、開始当初の1日平均利用冊数は50冊弱から、3月の1日平均利用冊数は101冊と増加している。2月から置き置き期間を延ばしたこととあわせて新型コロナウイルス感染症の影響により、非接触型サービスとしての利点から利用された面もあったと考えられる。

・電子図書館については、本格実施により読書バリアフリー法への対応のほか、利用申込み不要、検索機能のアップ等、利便性を備えた非来館型サービスを提供することができ、利用も試行時より多くなっている。

(再掲)

・電子書籍については、サービス開始に合わせて幅広い分野のコンテンツを収集、提供することができた。バリアフリー対応のため、読み上げに適したコンテンツを積極的に収集した。

・電子書籍の資格問題集の収集、多言語対応については、次年度以降の課題として残った。

【図書館協議会の評価・意見】

(1) 図書館サービス網の拡充整備

・三宮の返却ポストを利用している。東灘区にはまだないので、ぜひ増やしてほしい。

・快適便利な高機能機器の導入に関して、書籍消毒器の設置は良い取り組みであったと考えられる。新型コロナウイルス感染症に効果があるという科学的立証がなされていないという批判があるが、図書館にとって重要なことは利用者が新型コロナウイルスに感染する不安を少しでも取り除くことである。基本的な手指消毒等と呼びかけるだけではなく、心理的障壁を取り除き、巣ごもり状況にある市民が図書や雑誌を利用できる環境を整備することは大事であろう。

(2) 快適便利な高機能機器の導入

・書籍消毒器の設置を望んでいる利用者が小さい子供を持つ親など結構いるのではないだろうか。

・三宮の予約図書自動受取機はあまり分かりやすい設置場所とはいえないが、こうした市民サービスはより充実させてほしい。

・公衆無線 LAN の設置、予約図書自動受取機など、さまざまな機器類の導入は、これからの図書館には必須であり、市民の情報へのアクセスを快適にし、また利用者の時間を節約することは図書館の責務であると考えられる。

(3) ICT 技術を活用したサービスと情報提供

・読書バリアフリー法への対応などは、SDGs の観点からも素晴らしいと思う。

・コロナ禍で、自動貸し出し機がよく利用されているように思う。

・電子図書館の今後の展開に期待したい。

・電子図書館サービスの本格導入に関しては、ようやくこれで神戸市も ICT 活用型図書館サービスをスタートさせたと考えられる。まだまだ課題は多いが、まずは第一歩を踏み出したことは大いに賞賛されるべきだろう。

(その他全般)

・新たなサービスの導入については、非常によく展開されていると判断できる。

・(1) ～ (3) の内容をできる限り進めて、利便性をあげてほしい。

評価

B

5 利用しにくい市民への環境整備	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字図書館との連携構築 新電子図書館のサービス開始を、点字図書館の利用者にも案内いただけるよう依頼した。中央図書館でユニバーサル機器の展示を計画しており、アドバイスをいただくなど引き続き連携していく予定。 <p>(2) ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい利用案内」作成 作成できなかった ・館内サインの見直し検討 一般図書コーナーのピクトグラム付き書架見出しを刷新した（東灘） 身体が不自由な方が気軽に図書館を利用して頂けるように、「ユニバーサルコーナー」として優先座席を用意した。また拡大鏡やリーディングトラッカー等も利用しやすいようにカウンターに案内を掲示した。（垂水） <p>(3) 図書館を利用していない市民層への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進をはかる館内外での利用講座、「出前トーク」の実施 「出前トーク『図書館貴重資料に見る“こうべ”』」（中央）9/30 26人 於：住吉婦人会消費者学級 「本の案内しよっ～出張図書案内」（2-（2）の再掲） （北）9/27 6人・2/28 5人・3/21 5人 於：鈴蘭台街の小さな図書室 （北）3/21 15人 於：神鉄鈴蘭台駅ベルスト鈴蘭台3階広場 「図書館べんりガイド」（4-（3）の再掲）（須磨）10/18 33人・10/25 51人 「知っ得としょかん」（4-（3）の再掲）（新長田）10/27～11/8 14人 【閲覧だけではなく、これからは自動貸出機を使って本を借りたいからと、貸出カード発行につなげられたケースもあった。】 ・ママフレや長田区アプリ等メディアへの情報提供 「ためまっぷ中央」（三宮）「ためまっぷ長田」（新長田）への情報提供 エコール・リラのLINEを利用した行事等の情報提供（北神） 子育て応援アプリ「ナガイク」へのコラム（おすすり本の紹介ほか）掲載（新長田） ・転入者へ利用案内配布（検討）
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子図書館が1月5日より本格実施となり、2月特別支援学校などでPRを行い、3月には視覚に障害のある方をサポートされている公益社団法人の依頼で、Zoomを利用した「電子図書館の利用法・活用方法」という説明会を参加者向けに行った。 ・ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備については、各館とも工夫をこらし、ピクトグラムの導入など、随時行っている。館内表示だけでなく、配布するチラシやポスター、利用案内等「わかりやすい、やさしい」を基に作成していく予定である。 ・コロナ禍のため、当初計画していた「中央図書館でユニバーサル機器の展示等」の実施ができなかった。引き続き、連携とともにコロナ禍においてできる方法で、展示計画を実施する予定である。 ・外部アプリ等への情報提供を行うことができた。 ・利用促進をはかるイベントでは、自動貸出機を初めて利用したという方から、窓口での接触を減らせるとアピールすることで、今後も使ってみたいという好反応を得ることができた。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供</p>

・電子図書館サービスの本格的導入に伴い、読書バリアフリー法に規定されている「アクセシブルな電子書籍」がどの程度、神戸市民が利用できるのかを検証する必要がある。なぜならば、すべての電子図書が音声読み上げできるわけではないからである。音声読み上げ可能なタイトルをできる限り、増やしていくことがこれからの課題となろう。

(2) ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備

・観点4と同じく、読書バリアフリー法への対応などは、SDGsの観点からも素晴らしいと思う。

(3) 図書館を利用していない市民層への働きかけ

・図書館を利用していない市民層への働きかけ（「出前トーク」やメディアを使った情報提供など）を、より進めてほしい。

・図書館を利用していない市民層への働きかけは、全国的な課題だと思う。最近オープンした名谷図書館、西区や垂水区の図書館などは、若い世代などの利用も増えているのではないかと思うがどうか。

（東灘区民、中央区で働く者にとっては羨ましい。）

・図書館を利用していない市民層への働きかけに関しては、さまざまな取り組みがなされており、今後も積極的に新しい手法を開発し、より多くの市民が図書館の利用者となるように引き続き努力する必要がある。そういう意味でも、電子図書館のような非来館型サービスの拡充のため、特別支援学校へのPRやZoomを利用した「電子図書館の利用法・活用法」の説明会を実施したことは、高く評価することができる。

・4.におけるICTサービスの導入は、ユニバーサルデザインに配慮したサービス提供にもなっている。また、視覚しょう患者向けのサービスや紙媒体を利用したサービスの展開も優れている。他方、普段から、本を読まない、読めない人たちの利用促進をはかる館内外での利用講座については、講座という形式以外での広報の充実が望まれる。市内の他の教育施設、特に成人がよく利用するような美術館や博物館だけでなく、ハローワークなどの就業サービス関連施設との連携を図ることが望ましい。生活に困窮している人、生活に課題を抱える人たちへの、図書館からの資料提供を図るサービスの充実が望まれる。

（その他全般）

・利用しにくい市民へ情報を届けるための工夫をもう少し考えてほしい。本を聴きたい人はたくさんいると思う。小説のCDなども。

評 価

B

(1) 生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備

・資料収集と計画的な買替え

児童書新規購入数（令和2年度）：中央4,342冊（含BM）・地域図書館23,303冊

・乳幼児と保護者向けサービス イベント開催数 123回・参加人数 1,972人

「おひぎのうえのおはなし会」等の乳幼児向けおはなし会

（中央・東灘・灘・兵庫・北・北神・新長田・須磨・垂水）

☞定員を設け、参加者同士のスペースを適切に取れるよう、少人数で開催

「すくすく赤ちゃんセミナーオンライン」 11/16 1回目20組・2回目22組

1/25 85組・3/15 30組

こども家庭局主催 Zoom 生配信による乳児と保護者向け講座。図書館は「絵本の楽しみ方」をレクチャー

☞今回初めてオンラインにて全市共通で実施（例年は各区役所で対面実施）

「だっこでおはなし」（中央・三宮・兵庫・北・北神・新長田・須磨・垂水・西）

児童館、地域子育て応援プラザ等に出向いて、乳幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紹介を行うプログラム。

「ほのぼのひろば」（新長田）7～12月・3月

地域子育て応援プラザ長田と図書館スタッフによる絵本の読み聞かせ、手遊び歌、育児相談

「おはなしゆりかご」（兵庫）9月・10月 各月2回

地域子育て支援センター兵庫と図書館スタッフによる本の紹介や絵本の読み聞かせ、育児相談、ふれあい遊び

・館内外での子供と本をつなぐイベント

イベント開催数 346回・参加人数 4,630人 展示の回数 261回

◇図書館内

<夏休み行事等>

「キッズアイランド壁面展示」（北神）6/20～ 子供たちのぬりえを掲示するスペースを新設

「夏休みは本でぼうけん～図書館スタッフおすすめ本」（三宮）7/8～8/16

読書感想文おすすめ本の展示。利用者におすすめ本のタイトルを書いてもらい掲示(135枚)

「クイズラリー夏だ！ 自然でだいぼうけん」（新長田）7/22～8/23 176人

「スタンプラリー『お宝だいぼうけん！10』」（西）7/23～8/30

於：西図書館、埋蔵文化財センター クイズに答えて、両施設でスタンプを集める

「夏のおたのしみ袋」（須磨）8/1～8/30

幼児、小学校低中高学年の対象年齢別にテーマを決めて本を選び、袋詰めしたものを用意。

自動貸出機で貸出。

「影絵の世界」（灘）8/1 11人・10/3 8人 影絵劇団しろつめくさによる影絵

「おばけのうちわをつくろう」（北）8/8 13人

工作会終了後に、怖さをレベルで表したホラーバック（本の福袋）を選んでもらい貸出。

☞入替制で2回実施。換気・消毒を行った。例年、好評の怖いおはなし会の夏の開催を断念し、工作会に代替

<読書週間行事>

「分類ビンゴ」（中央）10/16～11/25 130人

ビンゴのマスに書かれた分類の本を読むイベント。

☞集わなくても、本を借りれば参加できるよう企画した。

「みる・きく・さわる～”りか本”のよみきかせワークショップ～出張版」（三宮）10/31 13人

テーマ：かたち バンドー科学館から講師を招いての実験・工作。図書館職員によるりか本（子供向けの理科の本）の読み聞かせ

☞距離の確保が難しかったため、今年は実験の実演を見てもらう形で実施。代わりにお土産

(いろいろな形のビーズを取り換えて楽しめる万華鏡)をお渡しする。参加者同士が向き合わないよう座席を配置した。

「クイズラリー『歴史』」(三宮)10/27 3人

「としょこちゃんからのちょうせん状」(兵庫)10/13~11/15 17人

クイズを解いていくことで、点字絵本、自動貸出機、パスファインダー等々、図書館のことがわかるクイズラリー

「注文の多い料理店 すまとしょかん支店からの脱出」(須磨)10/13~11/8 235人

館内に隠されたクイズを探し、問題を解く。自由参加式で、1周クリアすると裏クイズラリーに参加することが出来るという遊びの要素を取り入れた。

☞参加者が密にならないような動線を工夫。カウンターでの対応が最低限になるよう、答え合わせの簡略化、モチーフの衝立越しに参加者と接する等の配慮を行った。

【モチーフとした『注文の多い料理店』の作品に興味を持たれる方、ご家族も興味を持って本を探してくださるなど、子供だけでなく多くの方に好評であった】

<その他の行事>

「モ〜最幸福袋」児童〜一般 90冊(45袋)1/5~1/10貸出

1/26~2/28感想カードの展示(垂水)

スタッフおすすめの本を入れた福袋を貸出。返却後は書いてもらった感想カードを展示

◇図書館外

「こどもわくわく食堂での読み聞かせ」(兵庫)毎月第4土曜日 於:兵庫区聖家族児童館(カトリックキリスト教会敷地内)、国際交流シェアハウスやどかり

☞継続事業であるが、今年は絵本の展示(閲覧)を中心に実施。読み聞かせの要望がある場合は、屋外で人数制限(入替制)、マスク着用、距離を保った上で実施。

「夜の出張図書館「耳なし芳一読み語り」(兵庫)8/8 83人・8/10 67人 於:兵庫駅南公園第6回兵庫駅南公園こどもフェスタ「公園きもだめし」の中で読み聞かせを実施

「ワークショップ『かたち』」(三宮)9/26 4人・12/26 4人・3/27 6人

於:バンドー神戸青少年科学館

科学ワークショップのテーマに関する絵本の読み聞かせ

・小・中学生への調べ学習支援(調べ学習イベント、パスファインダー作成等)

イベント開催数 8回・参加人数 47人 展示の回数 5回

「『図書館を使った調べる学習コンクール』レプリカ&関連本展示」7月~8月

(東灘・新長田・須磨・垂水)

「図書館を使いこなそう!」(北)8/1 3人

図書館の基本を学び、クイズで楽しく実践を行う体験型のイベント

☞例年の内田家での調べ学習は検討した結果断念し、館内で資料の多さを活かすプログラムを実施

「自由研究講座」(垂水)8/6 7人

「親子で楽しむプログラミング教室」(新長田)9/6 4回・計23人

(株)mama square 連携(3-(4)の再掲)

「垂水の浜の生き物博士になろう」(垂水)10/17 4人

マリニピア神戸さかなの学校・栽培漁業センター連携

☞例年は夏に開催。今年は定員を削減し、受付方法を抽選に変更。生き物とのふれ合いは中止したが、少人数での開催で講師への質問がしやすく盛り上がった。

「プログラミング体験講座 ロボット『こくり』は動くかな?」(東灘)10/31 10人

「パスファインダー改訂『芸術』」(兵庫・北・北神)

・YAコーナーの充実を中心とした青少年層への読書推進

イベント開催数 3回・参加人数 90人 展示の回数 141回

「『10代のための』POPコンテスト@ほくしん」(北神)3/2~5/16 POP参加人数:21人

「YA 新刊コーナー新設」 (北神) 6/1～
 「『進路・進学ヒント』コーナー新設」 (北) 7/1～
 昨年度、季節限定での設置を行ったところ、資料利用が増えたことを受け常設。
 「あなたのアマビエコンテスト」 (須磨) 9/15～11/8 2人
 YA かわら版にてアマビエイラストの募集
 「『新長田図書館だより』のリニューアル」 (新長田) 10月～
 YA 世代以上を対象とし、“図書館を身近に感じられる、そしてちょっと得した気がする”
 をコンセプトにリニューアル。
 「to youth…よんどく？」 掲示 (新長田) 毎月
 長田区文化センターユースステーション内掲示版にて YA 向け図書館員おすすめ図書の紹介
 「展示『ほんのわ』で紹介した本、集めました。」 (北) 10/27～11/29
 YA 向け図書館だよりが 50 号の節目を迎えた読書週間行事として、各号に掲載の紹介文と
 ともに本を展示
 「あなたの「推し本」教えてください～POP コンテスト 2020～」 (北) 11/24～12/13
 POP 参加人数：24 人 コンテスト投票人数：43 人
 YA 世代から募集した本の POP を展示し、来館者に投票してもらった。また、投票後は、投
 票数の多かった人気の POP を本とともに展示した。

・学校と連携した中高生参加のイベント

イベント開催数 9 回・参加人数 485 人 展示の回数 2 回
 「夏のこわ～いおはなし会」 (兵庫) 8/1
 神港橋高校の生徒 1 人と図書館スタッフによるおはなし会
 「橋タウンミーティング」 (兵庫) 10/5・10/19・10/26 延 425 人 於:神戸市立神港橋高等学校
 地元兵庫区・神戸市の多様な分野で活躍する地域の人 (個人・団体・企業問わない) から、
 それぞれの取り組み事例を講演いただく。神港橋高校の 2 年生が対象。地域で活躍する“達人”
 たちから直接、活動内容を聞くことで、生徒たちの地域への関心を高め、神戸を支える「人
 財」育成に繋げる取り組み。
 ☞ 例年夏休みに、中央図書館を会場にして開催している中学校図書係生徒のつどいは、学校側
 の申し出により中止した。
 「中央図書館を極めよう！」 (調べ学習・自由研究) (中央) 10/16～1/8 5 人
 神戸市立須磨翔風高等学校の集中講座。初日に司書から情報の探し方について講義を行った。
 各自テーマを決めて、各々週 1 回来館し自由研究を行った。
 「兵庫図書館×兵庫中学ライブラリー POP コンテスト」 (兵庫) 11/17～12/13
 神戸市立兵庫中学校 2 年生、30 人の作成した POP を対象に学校、図書館、合同で優秀作 10 点
 を選出。その他、20 点の作品も館内に展示

・その他

「おはなしえほん」 (北神) 4/19～
 ☞ 緊急事態宣言を受けて自宅待機する子供が物語を自分で作って遊べる「おはなしえほん」を
 企画し、図書館ホームページと Facebook、エコー・リラの LINE、神戸新聞子育てクラブ「す
 きっぷ」のサイトに掲載
 「『ソーシャルディスタンス号』貸出」 (新長田) 10 月～
 ☞ 小学校低学年くらいまでの子ども 1 人が入れる大きさの、たこやペンギンを模った段ボール
 箱を館内で読書をする際に随時貸出。側面の腕のような部分を広げると横との距離が分か
 り、自然と適切な距離をとることができるというもの。

(下記に写真)



(2) 学校園との連携

- ・団体貸出による資料提供
 - 「テーマ本集め」(全館) 貸出回数：365回
 - 図書館再開後 5/29 より受付
 - 「総合学習用図書」の貸出(中央) 貸出回数：157回
 - 2学期より巡回貸出を開始
- ・幼稚園巡回図書の実施
 - 市立幼稚園 30園 私立幼稚園 15園 年2回の巡回(例年は3回)
- ・高校出前授業
 - 北須磨高校(中央)、夢野台高校(兵庫)、須磨友が丘高校(須磨)、伊川谷北高校(垂水)
 - 保育専攻の生徒に向けて「絵本の読み聞かせ」について講義・実践
- ・小学校出前授業「ブックトーク」(「本へのとびら」事業含む) (灘・兵庫・北) 19回
 - テーマ「韓国のおはなし」「おに」「世界の昔話」など
- ・小学校からの見学受入(全館) 64回
 - 8月から受入再開。密集を避けるため1クラスごとに分散して受入
- ・その他
 - 「小学校出前授業(図書館見学の代替)」(東灘・垂水・西) 14回
 - ☞館内の混雑を避けるため、今年度は出前授業の形での実施を小学校へ提案。写真を多用し館内を実体験できるようなスライドを作成

(3) 子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援

- ・ボランティア団体との連携企画
 - 「定例おはなし会」(職員およびボランティアグループ実施)
 - 7月より感染対策の整った館より再開。10月～全館ほとんどのグループで実施
 - ☞マスク、フェイスシールド着用、透明パネルの設置。人数削減、換気・消毒
- ・ボランティアスキルアップ講座の開催(中央)
 - 第1回「ボランティア交流会」12/11 25人
 - 尾野三千代氏の講話、ボランティアグループによるおはなし会実演
 - 第2回「2020年のこどもの本 紹介と展示」2/25 24人
 - 中央図書館の子どもサービス担当者による近刊児童書の紹介

評価

【図書館の自己評価】

- ・コロナ禍により従来の参集型行事ができなかったことで、各館ともそれに替わる方法を模索した。その結果、新たな発想での取組ができたことや、新規参加層の開拓につながる面もあった。感染終息後も、様々な理由で図書館を訪れにくい人との接点づくりに生かされる可能性はある。
- *本の福袋：自動貸出機により人との接触を回避。関心外の本、思いがけない本との出会いの提供。
- *小学校出前授業(見学の代替)：電子黒板で蔵書検索や電子図書館を実際に使って見せた。教室での子どもの集中度を実感。図書館についてよく知ってもらえた。
- *「すくすく赤ちゃんセミナーオンライン」での絵本の楽しみ方のレクチャー：デジタル世代の保護者に気軽に参加してもらえた。一度に多人数が参加可能なこと、絵本を画面上で大きく見てもらえることは利点と言える。

*「分類ビンゴ」「クリズラリー」：書架をめくり貸出することで参加できるイベントを実施したこと、より読書に直結する取組ができた。

*図書館作成の児童書紹介リーフレット・リストを集めたページをホームページに掲載

・令和2年度の子どもサービスと学校園連携は、閉館時期、取組の中止および実施回数の削減により、利用減少となっている。

*前年度比

子ども向け行事等（おはなし会等 40%、児童向け行事 30%、児童書展示 90%）

学校向け支援（テーマ本集め・総合学習用図書利用回数 80%、見学 50%、出前授業 60%）

図書館発信でのオンラインの取組は現在検討中である。子どもに対する行事は対面実施の良さ

（生の声の温かさ、一体感、絵本の質感など）を大切にしながら、オンラインの利点も事業によっては取り入れて今後の取組を考えていきたい。

【図書館協議会の評価・意見】

(1) 生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備

・中高生（大学生も？）向けの進路、学部や学校選び、仕事や働き方、人生や生き方の参考になる選書やアピールを望む。

・子供サービスの充実と学校図書館支援に関しては、中央図書館、地域図書館ともに計画的な買替えを実施している点は、評価できよう。また、Zoom 生配信による乳児と保護者向け講座のような試みは、今後もっと積極的に実施されるべきだろう。

・いわゆる STEAM 教育との関連で、文学や歴史だけでなく、科学ワークショップのような子供向けイベントももっと回数を増やすべきだろう。「親子で楽しむプログラミング教室」のような取り組みをこれからの公共図書館は意識的に実践する必要があると考えられる。

・YA コーナーの充実に関して、実際に中高生が主体的に図書館の YA コーナー作りに参画することが肝要である。中高生が主人公で、図書館司書はサポート役といった体制を早期に実現し、YA を対象とした図書館サービスを根底から見直す時期が来ているように思える。

・特に中高生の読書離れに対応したサービスの展開は、非常に評価できる。今後もさらにその展開を続けていただきたい。

(2) 学校園との連携

・令和2年度の学校教育活動は、4・5月は臨時休校となり、6月中旬からのスタートだった。新型コロナウイルス感染防止対策のため保護者でさえ入校を規制するなどの厳しい対応をしていたため、学校園との連携は難しかったことも仕方がないと思われる。

・図書館を身近なものとして使いこなすには、小さい頃からの関わり方が重要だと思う。小学校で、図書館の使いこなし方、電子図書館の使い方などを教えてほしい。各学校の図書室や司書さんと連携できないか。

・コロナ禍ではあるが、各図書館への見学の受け入れを積極的に増やしてほしい。

・学校園との連携についても、単なる団体貸出や巡回図書、出前授業、見学の受け入れだけでなく、電子図書の貸出サービス、電子雑誌の貸出サービス、オンラインデータベースの導入を市内の学校園に広げていくような試みを、電子図書館サービスを提供しているベンダーと交渉していく必要があるのではないかとと思われる。PISA 調査で明らかになった日本のオンライン授業の導入率が OECD 加盟国中最下位という実態は、2020 年から顕在化した新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、次第に導入率が高まる傾向にある。その中で、図書館情報資源のデジタル化とその活用は、学校園にとっても喫緊の課題であろう。神戸市という行政単位で見た場合、公共図書館と学校園の連携により、電子図書、電子雑誌、オンラインデータベースの活用を拡大し、新たな知見を生み出す場を創出することが重要であると考えられる。

・コロナ禍の中での利用減少はいたしかたないとして、学校園との連携の中で、各学校図書館との連携において、オンラインでのサービス利用の充実を図っていただきたい。各学校図書館では、英語教育の普及から、英語教材の増加が見込まれるが、市の図書館としても、学校でそろえられないような英語教材や各言語教材の充実を図っていただきたい。この報告書では、各学校図書館とのネットワークやプラットフォームの状況がわかりませんが、電子図書館サービスの充実とともに、そのようなシステム整備

を期待する。

(3) 子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援

(その他全般)

・様々な工夫をこらしたやり方で、イベントを実施されており、評価する。是非、この経験と実績を次につなげて行ってほしい。

・コロナ禍で特に子どもたちへの対応は難しい面があったと思う。オンラインでの取り組みについては、どのような方法が効果的なのか、引き続き検討してほしい。

・いろいろな企画を工夫していると思う。PRのしかたや参加方法を工夫して、さらに発展させてほしい。

・購入数などをみるととても充実しているし、イベントも多く、子供が本に出会う機会や、楽しむ機会を作っている。今後とも、コロナ禍でも、状況に応じた企画を行ってほしい。

・コロナ禍で大学での授業がほとんどない大学があり、友だちもできないし、授業もオンラインで苦境にいる学生もいるのではないかと思う。そんな大学生への企画ができればいいと思う。

評 価

B

令和3年度 神戸市立図書館 事業評価

令和4年8月
神戸市立図書館協議会

令和3年度神戸市立図書館事業評価

神戸市立図書館協議会は、事務局から提出された令和3年度の図書館サービスの自己評価について協議を行い、「令和3年度 神戸市立図書館事業評価」として公表する。

評価の基準

- A：計画どおり実施し、一定の成果があった
- B：概ね計画どおりだが、不十分な点や課題が残った
- C：不十分な点や課題が多く、計画どおりにいかなかった

令和3年度 of 取組項目と具体的取組及び評価項目

※「」印＝「コロナ時代に開催するための工夫」

取組項目	具体的取組
1 資料の充実	
(1)学習拠点としての資料の充実	<p>・学び直しに役立つ基本的な資料の買直し(分野ごと)</p> <p>今年度も引き続き、様々な分野で学びに役立つ基本的な資料を購入。大人向けの学びとして仕事のキャリアアップ等につながる図書も視野に入れた。 『今さら聞けないパソコン仕事の効率アップ 50』(須磨図書館) 『高校の教科書で学ぶ法学入門』(北神図書館) 『世界一やさしい会計の教科書 1年生』(兵庫図書館) 『契約の基本教科書』(名谷図書館)等</p> <p>西図書館では、今秋の移転開館に向けて学び直しコーナー用図書 869 冊を購入。 『文系のためのデータサイエンスがわかる本』『中高の教科書でわかる経済学』『絵ときでわかる機械力学』『知識ゼロからのプログラミング学習術』等</p> <p>・電子書籍(資格問題集等)の充実</p> <p>令和3年1月の本格導入より、読み上げ機能にも留意しながら、資料の充実を図っている。</p> <p>◆資格問題集 『ゼロからスタート!金城順之介の中小企業診断士 1 冊目の教科書』 『0 から始める簿記』『はじめて受ける英検 Jr.スーパードリルゴールド』等</p> <p>◆人気作家の小説・エッセイ 『強運の持ち主』(瀬尾まいこ)『流星ワゴン』(重松清) 『お徳用愛子の詰め合わせ』(佐藤愛子)『霊長類ヒト科動物図鑑』(向田邦子)等</p> <p>◆おうち時間を豊かにする料理本 『祥子さんこの知恵、いただきます』『糖質オフチーズケーキ&シフォンケーキ』等</p> <p>◆こどもが家で楽しめるクイズやなぞなぞの本 『楽しみながら学力アップ!小学生の学習クイズ 1000』『るるぶマンガとクイズで楽しく学ぶ!世界の国』『ファミリーであそぼう!最強なぞなぞブック 1000』等</p> <p>◆関心の高い認知症に関する本 『認知症介護に行き詰まる前に読む本』『認知症の人のイライラが消える接し方』等</p>
(2)ユニバーサルデザインに配慮した資料収集	<p>・貸出可能なマルチメディアデージー資料の収集</p> <p>中央・東灘・灘・垂水・西図書館でマルチメディア DAISY 図書「わいわい文庫」を提供している。(伊藤忠記念財団より毎年寄贈) 分かりやすい一覧を用意する等、利用者に広く知ってもらう方法を検討中である。</p>

・多言語資料、日本語学習用資料の収集検討

ベトナム語の資料を、新長田図書館で 97 冊、兵庫図書館で 19 冊購入。
西図書館では、今秋の移転開館に向けて外国語図書コーナー用の洋書を成人向け 405 冊、児童書 250 冊、合計 655 冊購入した。

・その他

電子書籍（読み上げ機能）の提供

令和 3 年 1 月 5 日より運用を開始した電子図書館では、選書にあたって読み上げに適した電子図書を中心にコンテンツの拡充を続けている。令和 3 年度末の総コンテンツ数 4,459 冊。

回想法 DVD の PR

昭和の映画のハイライトシーンを中心にダイジェスト編集した認知症予防・改善につながる回想法 DVD「映画 de 回想法」を 10 本購入（中央図書館）。著作権許諾済で貸出が可能のため、福祉施設等への PR を図る。

【図書館の自己評価】

- 学び直しに役立つ基本的な資料は、昨年に引き続き各館で購入を行った。
- ユニバーサルデザインに配慮した資料については、以前より収集を進めているデジタイズ図書に加えて、新たな試みとして回想法 DVD を購入した。
- 多言語資料の収集については、アジア系住民の方のニーズに合わせて各館で資料を購入することができた。
- 今秋移転開館する西図書館には、学び直しに関するコーナー、外国語図書のコーナーを設置予定であり、現在関連図書の購入を進めている。
- 電子書籍については、昨年に引き続きバリアフリー対応のため、読み上げに適したコンテンツを積極的に収集した。（2022/07 現在 2039 点）図書館向け電子書籍の出版状況や限られた予算内という制約もあるが、更に利用を促進できるようコンテンツの充実に努めたい。

【図書館協議会の評価・意見】

- ・学び直しのためや英語以外の外国図書、回想法 DVD などの新しい資料の購入は良いと思います。しっかり PR をして、利用につなげていただきたい。
- ・学び直しに役立つ本として購入された本は妥当だと感じました。資格修得に関する本は、どんどん入れ替えをする方向が良いと思います。電子書籍の内容にしても、記載されているものは一部だと推測するが、魅力的なラインナップだと思いました。特に「映画 de 回想法」の DVD の購入はとても興味深いですね。福祉施設などへの PR はもちろん、活用例を提案するとともに地域福祉センターでの地域イベントに使われても、楽しいのでは。新しいものから、新しい活動やイベントが生まれることを期待しています。令和 3 年から運用が始まった電子図書館をみたところ、今後、多くの人が活用する可能性を感じています。充実し、活用されるよう期待しています。
- ・学び直しに役立つ資料や多言語資料は必要とされる方が今後も増えるのではないだろうか。
- ・「学び直し」や多言語の資料などはニーズに応じて充実させてほしい。その利用状況がどうなのかも知りたい。例えば、アジア系住民の利用はどの程度なのだろうか。
- ・図書館を利用しにくい大人をターゲットとして、学び直しの観点から関連図書を充実させることは、そうした層の利用拡大を促す上でも有効な事業であったと評価できます。資格試験関係図書は常に最新版にアップデートする必要がありますので、今後とも継続的な購入が望まれます。また、認知症関連図書の充実もそうした情報を求めている市民のニーズにあった意味あるものと言えます。ただし、こうした図書は数多く出版されていますので、医学、介護関係の専門家にアドバイスを求め、正しい情報を市民に届けることにも今後さらに留意が必要と思われます。町の書店が減少している中にあることは、思いついたときに立ち読み感覚で立ち寄れる場所として図書館機能をさらに高めていただきたくお願いいたします。

・ユニバーサルデザインに配慮した資料の収集は、だれでもが図書館を利用できる上で重要であり、地道な努力を重ねているものと評価できますので、今後も引き続き収集に努めていただきたいと思います。変動する地域の住民特性を把握しながら、地域特性に応じた図書の実態も重要な事業であったものと評価できます。とくに、学校図書館では揃えにくい日本語を母語としない子どもたちへの図書の実態なども地域ニーズに応じ、今後とも継続していただきたいと思います。

・初めて「DAISY 図書 わいわい文庫」を知った。どのような人にとって使いやすいメディアであるのか、どのように使えばよいのか、利用促進のための方策が必要だと思う。

・令和3年1月から電子図書館を本格導入したとのことだが、コンテンツの充実や利用者数の推移はどうなっているのか。利用者数などは増えているのか。利用促進のために、どのような取り組みを行っているのか。

・「(1)学習拠点としての資料の充実」では、「電子書籍(資格問題集等)の充実」など電子資料を積極的に提供する利用者サービスについて高く評価することができる。これからの公共図書館の役割は紙媒体では不可能な、電子資料の特性を活用した利用者サービスを十分に果たしていくことである。「(2)ユニバーサルデザインに配慮した資料収集」では、「貸出可能なマルチメディアデージー資料の収集」が挙げられているが、このことも重要だが、視覚障害等を有する利用者からリクエストのある図書について、図書館が独自にテキストデータ化し、1カ月以内程度のサイクルで制作し、そのデータについては当該利用者へはもちろん国立国会図書館の「視覚障害者等用データ送信サービス」に提供することを実現していただきたい。その労力を考えるとあらゆる電子書籍が音声読み上げ対応になっていることの便利さが実感できるだろう。そして、そのことが公共図書館において「読書バリアフリー法」が求めるアクセシブルな電子書籍を増やしていくことに直結すると考えられる。また、「多言語資料、日本語学習用資料の収集検討」は喫緊の利用者サービスにおける課題である。これも紙媒体だけでなく、多言語対応電子書籍による課題解決型利用者サービスを、日本語を母語としない利用者に提供していくことが重要である。

・1.資料の充実「(1)学習拠点としての資料の充実」リカレント教育のための資料の充実という点では、各地区図書館がそれぞれの分野での資料を集めていることが評価できます。ただ、地域の文化資産の学習資料の充実という点では、どのようになっているかわかりません。神戸市といえば、阪神淡路大震災で非常に多くの被害を受けた地域であり、そうした被災都市としての資料、あるいは、港湾都市としての神戸市の歴史資料などの充実、あるいは、文化都市としてのコレクションなどの状況がこの報告からは読み取れず、評価できません。「(2)ユニバーサルデザインに配慮した資料収集」高齢社会や国際社会としての神戸市の状況に応じて、マルチメディアDAISY図書や外国語資料、日本語学習用資料が充実する方向に動いている点は、高く評価されます。ただ、上述のこととも関連しますが、また、新たなサービスの充実という項目とも関連しますが、各図書館が収集してきた地域文化資料の電子化、コレクションの電子化の状況がわかりません。地域文化資料の電子化には多くの予算が必要とされますが、図書館のデジタルシフトが進む時代に応じた資料作成や資料収集を図る必要があるといえます。

<p>評 価</p> <p style="font-size: 2em;">A</p>

2学習機会の提供

☞利用者参加のイベントでは、定員の削減や会場の変更、実施時間の短縮、実施者・参加者双方のマスク着用等、感染症対策を施した上で実施した。(他の項目も同様)

(1)仕事や地域活動に
役立つ情報・機会の提供

・講座、講演会、展示の実施
 ・その他イベントの実施
 ◆仕事・地元企業
 「神戸セレクション講演会-魅力ある神戸の企業を知る-」(中央)7/15 32人
 「働きナガタ読みナガタ」(新長田)7/24 5人・10/9 2人・12/11 15人・3/19 5人
 地域のために働く人たちに仕事や愛読書について語ってもらうトークイベント。7/24は長田区長、10/9は神戸市税務部若手職員ワーキングチームの職員、12/11と3/19は長田区まちづくり課職員が講演。
 「ビジネス講演会「起業(ゆめ)を形に2022 ー創業する前に知っておきたいことー」」(中央)
 2/25 15人

(1)(2)合計
 イベント開催数 192回
 参加人数 4,156人
 展示の回数 684回

2階閲覧スペースに常設のビジネス支援コーナーを新設（北）9/1～
「創業する前に知っておきたいこと」資料展示（中央）1/29～2/27

災害・阪神淡路大震災

「土砂災害防止パネル展」（東灘）6/26～7/2

「おかえり、記憶の街」（灘）10/6 15人

震災前の JR 六甲道駅付近の建物オブジェを元に、どこに何があったのかを復元していくイベント。記憶や思い出を共有すると共に、失われたコミュニティを回復する手助けとなることを期待。

「パネル展示空から見る神戸の被害 38 分間阪神淡路大震災」（新長田）1/4～1/30

◆健康・福祉

「自殺予防週間関連展示」9月「自殺対策強化月間関連展示」3月（全館）

「認知症関連展示」（中央・東灘・三宮・北・北神・新長田・須磨・垂水・西）9月

「障害者が地域で暮らすこと@図書館 vol.3 展示編」（兵庫）12/1～12/17

◆教育関連

「講演会「ネットゲーム・スマホ依存の恐怖」」（新長田）11/5 16人 於：ふたば学舎

神戸市立ふたば学舎と連携し、元毎日新聞論説委員で関西学院大学非常勤講師の平野幸夫氏を招き、活字離れを誘発している要因の一つとも考えられている”ネット依存””ゲーム障害”についての講演会を行った。

「教科書展示会」（中央・東灘・灘・兵庫・北・北神・新長田・名谷・西）6/18～7/3

(2)生活の質を高める情報・機会の提供

イベント開催数 172 回

参加人数 3,887 人

展示の回数 632 回

・講座、講演会、展示の実施

・その他イベントの実施

◆図書館・本にまつわるイベント

「開館 40 周年記念行事「開館 40 周年記念お祝い絵を完成させよう」」（須磨）9/1～9/4 208人
須磨図書館のスタッフが作成した貼り絵のピースを貸出利用者に貼ってもらい、開館記念イラストを完成させた。

「大人のクイズラリー～目指せ図書館マスター～」（新長田）10/19～11/9 50人

対面や接触の少ないイベントと考えて企画した。クイズラリーの用紙に、分類番号の説明を入れる、「アジアコーナー」等についての問題を入れるなど、新長田図書館を良く知ってもらうための工夫を凝らした。

【コロナで中々外出できなかったので、久しぶりの楽しい時間でした。】

「第 10 期垂水マスターズ・ゼミ 第 4 回「図書館を使いこなす&ボランティアのいろは」」（垂水）

10/28 14人 於：垂水区文化センター

「垂水図書館 30 周年 お祝いの樹」（垂水）11/9～3/31

利用者を書いていただいた葉型のメッセージカードを樹に見立てた掲示物に貼り付け展示。

「北野勇作 100 字小説ミニ朗読会」（東灘）11/23 30人

関西在住の作家・北野勇作氏の 100 字小説を 100 作、館内 100 ヶ所に展示した。また、同氏によるミニ朗読会を行った。

「北野勇作 100 字小説 100 作 100 ヶ展」（東灘）11/16～12/19

「兵庫図書館開館 25 周年記念企画「みんなで作ろう兵庫区かるた(読み札編)」」（兵庫）

12/28～3/31 56人

様々な角度から兵庫区の魅力をかるたにして残し、広く知ってもらう。取り札と併せたかるたの完成は令和 4 年度の予定。

「読書会」（北）4月・7月・10月・11月・12月・1月 計 6 回 42人

「大人の楽しい朗読」（新長田）6月・10月・12月 計 3 回 14人

「大人の朗読」（灘）7月・11月・1月・3月 計 4 回 47人

「大人のためのおはなし会」（北）11/3 28人 於：すずらんホール多目的ホール

「本の福袋」「おたのしみ袋」（中央・東灘・灘・三宮・北・北神・新長田・須磨・名谷・垂水・西）

4月・5月・6月・7月・10月・11月・12月・1月

福袋、おたのしみ袋、覆面BOOK、LUCKYBAG等と称して、図書館で選書した本を袋詰めにし、袋毎に貸出（東灘はYA向け、三宮は児童・YA向けに実施、中央は一般・児童向けに実施）

【楽しかったです。もう1袋借ります。】【本との出会いが楽しいので、また企画してほしい。】

【新しい作家さんを知ることができてよかった。】

☞職員が選んだ本を、おすすめの文章やテーマだけが分かる状態で袋に入れ、自動貸出機で利用者自身に貸出手続きしてもらった。非対面で貸出することができる自動貸出機の利用を促進することにもつながる行事として実施した。

☞新たな本との出会いを生むと同時に、利用者が書架から本を探す時間を短縮することが期待できる。

「雑誌リサイクルフェア」（中央・東灘・北・新長田）10月～11月

保存期間が過ぎた雑誌を読書週間中にフェアとして市民譲渡した。これ以外の館は、常設で定期的に譲渡した。

☞整理券配布、入場制限、密集を避けるように雑誌を配置。

「ブックカバーを作ろう」（須磨）10/27 5人・10/30 5人

「工作教室「ちぎり絵ブックカバーとしおりを作ろう」」（西）10/31 7人

「本の修理教室」（灘）12/19 4人

「ショーケース展示「開館25周年企画展示 プレイバック 1996～兵庫図書館のはじめの一步をふりかえる～」」（兵庫）8/1～10/10

1996年当時の図書館カードやPHS、映画作品のビデオ、玩具、CD等で兵庫図書館開館当時の世相を振り返った。

「企画展示「アートで魅せる図書館展」」（北）10/26～11/12

多目的室を小さな美術館に見立て、面展台を複数台利用して、美しい本の装丁や挿絵をアートとして展示。

「開館一周年記念展示「ワタシのイチ推し本@大丸須磨店」」（名谷）3/23～4/10

図書館内と大丸須磨店1階エスカレーター付近の2か所で図書館スタッフのおすすめ本をPOPとあわせて展示した。

◆地域の歴史

「地域歴史講演会」（東灘）6/27「久原房之介と住吉村の人々」15人

10/10「住吉駅146年の歴史 東灘区発展のいしずえ」15人

12/11「平生夙三郎とその時代」15人

「講演会「国史跡・五色塚古墳のあゆみ」」（中央）10/29 35人

「体験講座「円筒埴輪を作ろう！」」（中央）10/30 23人

「パネル展示「新長田図書館開館25周年記念写真に見る長田の明治・大正・昭和の時代」」

（新長田）令和2年12月～令和3年11月

神戸アーカイブ写真館所蔵の西神戸の歴史についてのパネルを展示。

◆芸術

『新長田図書館で現代アート』（新長田）※下記は内訳

→「企画展示「新長田図書館でアートにふれる」」4月～

City gallery2320の協力により、長田区ゆかりの現代美術作家の作品を入れ替えながら館内に展示。

→「だるま森の波流音（はるおん）ハープと読み語り」6/27 25人

長田区で活動する総合工作芸術家 だるま森+えりこ氏による絵本の読み聞かせと創作楽器の演奏。

【カウンター横に飾ってある絵の人だと知り、興味があってきた。子供も飽きずに見入っていたのでよかった。（図書館での音楽イベントについて）全然アリだと思う。】

→「ワークショップ「気分はアーティスト！プロ作家とトレーシング」」10/3 5人

清原健彦氏（美術作家）を講師に招いたワークショップ。講師が県政150周年で描いた神戸ゆかりの作品のコピーを壁に貼り、トレーシングペーパーをあてて鉛筆でなぞる体験。

【普段は家にこもりがちだが、楽しい時間を過ごせた。図書館にはいろんなイベントを期待したい。ぜひまた参加したい。】

「映画監督濱口竜介氏講演会「文学と映画」」（新長田）12/26 45人 於：ふたば学舎

【映像がメインと思っていた映画だが、セリフの語尾ひとつとってもこれほど精査して脚本を作っていることがわかり感動した。】

「影絵の世界」（灘）4月・8月・10月・12月 計4回43人

「気軽に落語会」(灘) 4月・7月・10月 計3回 42人

「楽しい絵手紙講座」(北神) 7月・11月 計2回 15人

「短歌ワークショップ」(灘) 7/31 6人

「大人の工作教室 画用紙でかご編」(東灘) 11/3 7人

【とても楽しかった。】【思っていたよりも難しかったから、本を借りて帰って見るわ。】

「初めての背表紙川柳会@兵庫図書館」(兵庫) 2/26 3人

【図書館の自己評価】

○一昨年度から試行錯誤してきた感染症対策のノウハウにより、工夫しながら行事を開催した。

○濱口竜介氏(映画監督)、北野勇作氏(作家)、清原健彦氏(美術作家)等、図書館の枠を超えた文化人による行事を開催し、参加者から好評を得ることができた。

○兵庫区かるたや東灘区の地域歴史講演会等、地域に根差した行事を行うことができた。

○参加者が適切な距離を保てるよう会場に合わせて参加人数を調節する、飛沫が飛んだり接触したりすることがない内容にする、状況によっては当初より中止することも考慮に入れて企画する等、感染症対策には引き続き苦慮している。

【図書館協議会の評価・意見】

・「神戸セレクション講演会-魅力ある神戸の企業を知る-」(中央)など、数多くの講演会、展示の実施を通して、市民への学習機会を創出したことは高く評価することができる。とりわけ、新型コロナウイルス感染症拡大の中で、実施したことに対して、図書館のパワーを感じる。これからも積極的に継続していただきたい。

・新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じながら図書館以外でも積極的に活動していることが素晴らしいと感じる。

・非対面での貸出ができる自動貸出機の利用を促すイベント(「本の福袋」など)は、各館で実施されており、良いと思いました。また、図書館と美術や音楽が繋がった企画は楽しいもので図書館の可能性も広げ、利用者の感想にもありますが、進めていただきたいです。利用者参加型イベントは、コロナ禍においては大変な苦労があったと思うので限りのことをやっていただけたような結果が伺えました。このような機会に救われた人、新たなきっかけを得た人、プラスを得られた人もきっといたのでは。中でも、図書館の枠を超えた文化人による行事の開催は素晴らしいと思いました。枠は超えたかもしれないが、やはり「図書館」という施設の格から考えると、図書館ならではの知的な企画ではないかと。今後も日本を代表する文化人、また著名な人を招いての行事に期待しています。

・工夫しながら行事を行っていることがうかがえる。映画監督濱口竜介氏など図書館の枠を超えた講演会は興味深い。今後も積極的に展開してほしい。

・コロナ感染状況下において、感染防止を図りながらの数多くのイベント実施は高く評価できます。せっかくのイベントですので、今後はむしろ対面、リアルタイムにこだわらず、イベントの形式、権利関係の事情が許す限りオンライン参加が可能なハイブリッド開催、イベントのアーカイブ配信も検討していただきたく思います。

・感染症対策を行いながら、各図書館でできることを取り組まれたことが理解できる。ただ、取り組み内容やイベントの工夫は、図書館によって温度差があるようにも感じる。ある図書館で成功した取り組みやイベントを参考に、ノウハウなども共有しながら、市内の各図書館で参加できたり、WEBなどで参加(後日視聴するなど)できると尚良いと思う。

・「(1)仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供」仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供という点では、非常に多くの学習機会が提供されていると評価できます。健康・福祉という点でも問題ないのですが、教育関連の学習機会については、ここに入るかどうかわかりませんが、子育てについての学習機会は、ネット依存の問題の講演会がありますが、「6」に入るのでしょうかあまりみられません。また、多くの地域で取り上げられているSDGsについてなど、現代的な地域課題についての学習機会があまりみられません。「(2)生活の質を高める情報・機会の提供」図書館である以上、生活の質を高めるために図書館や本にまつわるイベントは、重要であり、十分行われていることが評価できます。また、地域の歴史や芸術という点でも住民の期待に応えられるイベントが講演会やワークショップなど多様な学習法で提供されています。コロナ禍の中での開催にあたって多くの配慮がなされた上で提供されています。

評価

A

3関係機関との協働(2からの抜き出し)

(1)行政機関との連携
イベント開催数 37回
参加人数 2,531人
展示の回数 113回

・福祉局、健康局

「歯科口腔保健啓発展示」(中央) 6/18～6/30 健康局
「自殺予防週間関連展示」9月「自殺対策強化月間関連展示」3月(全館)健康局(2-(1)の再掲)
「認知症関連展示」(中央・東灘・三宮・北・北神・新長田・須磨・垂水・西)9月 福祉局
(2-(1)の再掲)

・各区まちづくり課

「灘区制90周年パネル展示」(灘)11/16～11/30 灘区役所
「みんなの学び場」(兵庫)4/1～ 於:イオンモールこうべ南 兵庫区役所×イオンモール神戸南
スタッフが選んだ本を毎月30冊程度イオンモール神戸南の「みんなの学び場」にて展示。
「みんなの青空図書館」(兵庫)11/13 約900人 於:御崎公園
兵庫区役所×兵庫区みらい会議(5-(3)へ再掲)
本を通じて交流することを目的に兵庫図書館が企画し、兵庫区みらい会議が主催した。絵本600冊を展示し子どもたちに自由に読んでもらう“絵の本ひろば”、東日本大震災の被災地に本を届けていた“えほんカー”、兵庫図書館のスタッフが相談に応じて本をおすすめする“本の処方箋”等、ノエビアスタジアム前の御崎公園芝生広場において14ブースが開設された。
「兵庫区こどもプロジェクト「平野展望公園こどもフェスタ」」(兵庫)3/13 278人
兵庫区こどもプロジェクト×平野祭実行委員会×絵の本ひろばという図書館は全体の企画・運営に加え、「絵の本ひろばという」と協同して、絵の本ひろばを開催。
「出張ブックトーク「本の案内しよっ」」(北)7月・10月・3月 計3回43人
於:ベルスト鈴蘭台 北区役所×ベルスト鈴蘭台(5-(3)へ再掲)
北区役所・ベルスト鈴蘭台主催のイベント「わたしのまちことば」において、7月は「宇宙」、10月は「やま」、3月は「鉄道」の本を紹介。
「出張関連図書展示」(北)11/10・12/14・1/18 於:ベルスト鈴蘭台 北区役所×ベルスト鈴蘭台
ベルスト鈴蘭台主催の出前トークイベントに併せて、11/10は「いま、王子動物園がおもしろい!」、12/14は「森からのたより～森林植物園ですごそう～」、1/18は「阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた自助・共助・公助の備え 備えよう!助け合おう!」のテーマに沿った資料をブックリストやチラシの配布とともに展示した。
「有馬文庫出張展示」(北神)2/2～4/30・5/1～6/30
北神区役所×有馬出張所×有馬ふれあいのまちづくり協議会
「働きナガタ読みナガタ」(新長田)7月・12月・3月 計3回25人 長田区役所(2-(1)の再掲)
7/24は長田区長、12/11と3/19は長田区まちづくり課職員が講演。
『輝け★須磨オヤジ塾』『図書館の使い方』(名谷)12/23 13人 須磨区役所(5-(3)へ再掲)
「第10期垂水マスタース・ゼミ第4回「図書館を使いこなす&ボランティアのいろは」」(垂水)
10/28 14人 於:垂水区文化センター 垂水区役所(2-(1)の再掲)(5-(3)へ再掲)

・文化財課、埋蔵文化財センター、文化交流課

埋蔵文化財センターの春季企画展「国史跡・五色塚古墳のあゆみ」へ図書館資料貸出(中央)4月
「五色塚古墳を知ろう!」(中央)5/11～6/2 埋蔵文化財センター
資料80冊と共に、埋蔵文化財センター所蔵の展示物約20点を展示。
「スタンプラリーお宝だいぼうけん11」(西)7/20～8/31 348人 埋蔵文化財センター
(6-(1)へ再掲)
埋蔵文化財センターと共同で児童向けのスタンプラリーを開催。西図書館では併せて連携した資料展示も同時開催した。
「講演会「国史跡・五色塚古墳のあゆみ」」(中央)10/29 35人 埋蔵文化財センター(2-(2)の再掲)
「体験講座「円筒埴輪を作ろう!」」(中央)10/30 23人 埋蔵文化財センター(2-(2)の再掲)
「第10回神戸国際フルーツコンクールPR展示」(中央)7/16～8/4 文化交流課×神戸市民文化振興財団
「こども本の森 神戸」開館記念イベント」(中央)3/30 於:東遊園地 文化交流課

(5-(3)・6-(1)へ再掲)

中央図書館の出店ブース「空と森のかりっこえほん」として、資料展示、しおりを作る工作会(220人)、おはなし会(49人)を行った。

・産業振興財団

「神戸セレクション講演会-魅力ある神戸の企業を知る-」(中央)7/15 32人

神戸市産業振興財団(2-(1)の再掲)(3-(4)へ再掲)

・その他

「戦災関連資料展」(中央)8/5~8/19 行財政局

「その横断は大丈夫?シミュレーターで安全歩行を体験確認」(新長田)8/5 50人 長田警察署

「シミュレーターで体験「自転車運転もご安全に」」(新長田)1/6 20人 長田警察署

「コロナ禍で困難を抱える女性に対する相談支援事業」(全館)9月~ こども家庭局

相談ダイヤルや相談イベントの内容を周知するための生理用品の配布に協力。

「トークイベント「豊かな出会いを生む、図書館のかたち」」(三宮)11/21 57人 KIITO

三宮図書館とKIITOの連携事業として、トークイベントを開催。有限会社BACH代表の幅允孝氏、札幌市中央図書館の浅野隆夫と共に、三宮図書館長が登壇。於:KIITO

「広場をみんなで使ってみよう」(兵庫)11/28・3/20 各約60人(5-(3)へ再掲)

於:JR兵庫駅前キャナルタウン広場 都市局

JR兵庫駅前キャナルタウン広場を地域で活用してもらうための市の社会実験に参加し、人工芝を敷設したエリアに木製什器を活用したミニライブラリーを設置。

「北朝鮮人権侵害問題啓発週間「拉致問題啓発パネル展」」(中央)12/10~12/15 市長室国際部

(2)学校園との連携

→6子供サービスの項へ

(3)大学との連携

イベント開催数 3回

参加人数 16人

展示の回数 0回

・神戸市外国語大学と新たな利用協定締結

「神戸市立図書館と神戸市外国語大学学術情報センターとの資料相互利用に関する協定」12/21

外国語大学のシステム離脱に伴い、これまでの相互貸借を継続するため新たに締結。

・神戸大学等、地元大学との連携イベントの開催

・大学が実施する地域貢献事業への支援

「おかえり、記憶の街」(灘)10/6 15人 神戸大学(2-(1)の再掲)

「V.School 小学生の読書習慣向上プロジェクト」(中央)12/21 16人 神戸大学

中央図書館職員が講師として、年齢や興味に応じた本の勧め方について、ブックトーク形式で図書紹介をしながら大学生にレクチャーした。

・実習やインターンシップの受け入れ

「実習」(中央)同志社大学 9/7~9/11 2人

「インターンシップ」(中央)大手前大学 8/3~8/7 2人

(須磨)神戸女子大学 8/18~8/19 2人

(中央)神戸女子大学 8/19 2人

☞実習生にも、マスクや手洗い等、感染症対策を徹底。

・その他

学生がデザインした図書館案内パネルの設置(名谷)8/27~ 神戸芸術工科大学×大丸須磨店

神戸芸術工科大学と大丸須磨店がコラボした学生プロジェクトの一環として、大丸須磨店のキ

キャラクターを作成。キャラクターが図書館の案内をしている看板の設置に協力。



(4)企業との連携

イベント開催数 22回

参加人数 376人

展示の回数 12回

・ビジネス支援講座の実施(中央、三宮)

「ビジネス講演会「起業(ゆめ)を形に 2022 ー創業する前に知っておきたいことー」」(中央) 2/25 15人 日本政策金融公庫(2-(1)の再掲)

・神戸セレクション関連イベントでの地元企業との連携(中央)

「神戸セレクション講演会-魅力ある神戸の企業を知る-(中央) 7/15 32人(2-(1)・3-(1)の再掲)
六甲バター株式会社と株式会社美人ぬか本舗の担当者を講師に招き、地元で活躍される企業の魅力を語っていただいた。

・その他

「オリジナルブックカバーとしおりの配布」(名谷) 6/23~6/30 大丸須磨店(4-(2)へ再掲)
自動貸出機の利用促進と再生利用資源への関心を高めることを目的に、自動貸出機利用の方に茶殻を利用した再生紙で作ったノベルティー(大丸須磨店提供のオリジナルブックカバーとしおり)を配布。

「SumArtFesta 協力展示としおり配布」(名谷) 3/19~3/28 大丸須磨店

「開館一周年記念展示「ワタシのイチ推し本@大丸須磨店」」(名谷) 3/23~4/10 大丸須磨店(2-(2)の再掲)

「ワークショップ「アニマルカリモク」」(名谷) 11/7(3回) 37人 カリモク家具株式会社
家具メーカーの「カリモク家具」の協力を得て、家具の端材から自由にイメージして動物を作る児童向けの工作会。

「「MACHI・ゴミ・ゼロ運動」でのブックトーク」(東灘) 11月・2月 計2回 32人 コープこうべ第3地区本部

東灘区内の企業と地域住民による清掃活動と生涯学習に協力、清掃活動後に環境問題についてのブックトークを行った。

「創業する前に知っておきたいこと」資料展示(中央) 1/29~2/27 日本政策公庫
資料展示と併せてパンフレット配布(51種)も実施した。

「開館一周年記念 ワークショップ「オーナメントを作ってかざろう!」」(名谷) 3/26~3/27
計127人(児童向け) コウベノモリト(6-(1)へ再掲)

「職業体験」(灘) 就労移行支援ハンズ三宮 9/14~9/16 1人

(灘) ウェルビーニ崎センター 10/12~10/14 1人

(灘) PEAKS 神戸 11/30~12/3 1人

(灘) ウェルビー神戸三宮センター 1/25~1/28、3/8~3/11 各1人

(新長田) PEAKS 神戸 11/16~11/19 1人

(新長田) 就労移行支援ハンズ三宮 3/8~3/15 1人

(垂水) サンヴィレッジ三宮センター 2/2~2/4 1人

・既存の関係団体との連携継続(KFC、神戸アーカイブ写真館等)

(5)地域団体・NPO との
連携

イベント開催数 23 回

参加人数 346 人

展示の回数 35 回

「パネル展示」(東灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西) 神戸アーカイブ写真館
神戸アーカイブ写真館所蔵のパネルを館内に展示。※下記は内訳
→「新長田図書館開館 25 周年記念写真に見る長田の明治・大正・昭和の時代」
(新長田) 令和 2 年 12 月～令和 3 年 11 月 (2-(2)の再掲)
→「今昔写真館」(須磨) 8/11～10/10
→「かわりゆく三宮」(三宮) 10/25～11/7
→「神戸の神社を訪ねて」(西) 11/23～2/20
→「垂水図書館 30 周年今昔写真展」(垂水) 11/11～12/11
→「空から見る神戸の被害 38 分間阪神淡路大震災」(新長田) 1/4～1/30
→「東灘区の移り変わり・今昔写真展」(東灘) 1/4～3/31
→「震災パネル展示」(三宮) 1/5～1/17

・外国人をサポートする団体との関係構築

「絵本の読み聞かせ」(新長田) 6 月・10 月・11 月・3 月 計 4 回 37 人
NPO 法人神戸定住外国人支援センター (KFC) (5-(1)へ再掲)
図書館スタッフが児童に読み聞かせを行った。
「留学生版トライやるウィーク」(兵庫) 9/18・9/25 各 2 人
国際交流シェアハウスやどかり×兵庫区役所総務部まちづくり課
兵庫区みらい会議で企画したベトナム、台湾からの留学生の職業体験に協力。

・連携先と相互に利用 PR

「企画展示 長田区 今月の主人公」(新長田)
月ごとに地元で活躍する著名人のお薦め本の展示。長田区役所職員・長田郵便局長・ふたば学
舎職員・現代美術作家・映画監督等にも広く依頼。地域の団体の方は下記。
(6 月) city gallery 2320 向井修一氏
(7 月) 神戸定住外国人支援センター理事長 金宣吉氏
(2 月) 絵本『神戸・長田のちいさな子守唄』プロジェクト・メンバー 三浦万奈氏

・その他

「企画展示「新長田図書館でアートにふれる」」(新長田) 4 月～ city gallery2320 (2-(2)の再掲)
「気軽に落語会」(灘) 4 月・7 月・10 月 計 3 回 42 人 楽喜落語研究会 (2-(2)の再掲)
「地域歴史講演会」(東灘) 6/27 「久原房之介と住吉村の人々」15 人 住吉歴史資料館 (2-(1)の再掲)
10/10 「住吉駅 146 年の歴史 東灘区発展のいしずえ」15 人 (2-(1)の再掲)
12/11 「平生 八三郎とその時代」15 人 (2-(1)の再掲)
「「キッズクッキング～ハロウィン弁当づくり～」での出前おはなし会」(東灘) 10/30 33 人 (児童向け)
於：東灘区文化センター8 階料理教室 東灘マスターズ (食親同好会) (6-(1)へ再掲)
東灘マスターズ「食親同好会」主催による親子で楽しむキッズクッキング教室。東灘図書館は
共催として、オープニングに絵本の読み聞かせを行った。
「ブックトーク「ヤングクッキング～食と SDG s～」」(東灘) 3/26 3 人 (YA 向け)
於：東灘区文化センター8 階料理教室 東灘マスターズ (食親同好会) (6-(1)へ再掲)
「ウィンドオーケストラ今津@東灘図書館」(東灘) 11/7 70 人 ウィンドオーケストラ今津
図書館ロビーでミニコンサートを実施。

【図書館の自己評価】

○「みんなの青空図書館」や「広場をみんなで使ってみよう」等、他部局と協力しながら館外で本にふれる機会をつくる比較的大きな規模のイベントを開催することができた。
○令和 3 年 3 月に開館した名谷図書館では、大丸須磨店と相互に協力した数多くの事業を行うことができた。
○大丸須磨店のほかにも、ベルスト鈴蘭台、こども本の森 神戸、デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) と連携することで、従来の図書館利用者層以外にも働きかけることができた。

○ウィンドオーケストラ今津によるロビーコンサートや、だるま森氏による手作り楽器の演奏など、新たな連携者とともに図書館で音楽鑑賞という初めての試みを行い、参加者の好評を得た。

○文化財課（埋蔵文化財センター）との連携により、五色塚古墳関連企画をいくつもを行い、図書館で古代史に親しんでもらうことができた。

【図書館協議会の評価・意見】

・各区のまちづくり課などと連携してのイベントや、屋外での大規模イベントなど、努力されていると思います。新しい試み「手作り楽器と演奏」や、また、図書館利用者層以外にも働きかける企画は着目点が大変良いと思いました。今後も継続的に行って欲しい取り組みです。

・様々な機関や企業との連携は、地道ではあるが、図書館利用者を増やすきっかけになっていくと思われる。

・地域団体・NPOなど、さまざまな形の連携に取り組み、活動の幅を広げるのはいいことだと思う。従来の利用者層以外へのアプローチを強めてほしい。

・コロナ感染状況下にあって、感染防止を図りながらの数多くのイベント実施、とくに市報以外に発信機能が少ない行政部署との協働、企業や地域団体等との連携事業を数多くなされたことは、図書館の所蔵資料の紹介を超え、多様な情報発信機能を発揮したものと高く評価できます。（2と重複しますが）せっかくのイベントですので、今後はむしろ対面、リアルタイムにこだわらず、イベントの形式、権利関係の事情が許す限りオンライン参加が可能なハイブリッド開催、イベントのアーカイブ配信も検討していただきたく思います。

・資料を見て、多くの良い企画をされていると感じたが、図書館（東灘図書館、三宮図書館、KIITO・名谷など）にはよく足を運んでいるが、開催情報をほとんど見たことがない。どのように周知・参加者募集をされているのか。

・「関係機関との協働」では、行政機関、学校園、大学、企業、地域団体・NPOとの連携が積極的に図られており、評価することができる。しかし、その一方で行政機関との連携では、新たに各部局が発信するさまざまな市民向け情報を図書館が一括して収集し、提供することが必要だろう。具体的には、PDFやHTMLの形式で神戸市のホームページに公開されている文書、パンフレット、リーフレットなどの電子資料を部局ごとに折衝して入手するのではなく、クロールによる自動収集を行い、図書館がポータルサイトとなって、市民への情報の窓口を作ることが重要である。その際、資料のテキストデータ化によって、(1)キーワード検索できること、(2)音声読み上げができること、は大前提となる。これにより、埋もれた電子資料をだれでも必要に応じて発見することが可能となり、また神戸市の行政情報を視覚障害等を有する利用者や日本語を母語としない利用者がアクセスすることができる。全国の政令指定都市の中で神戸市がもっとも先進的な取り組みをすることによって、市民的価値の創出につながると考えられるのである。また、「外国人をサポートする団体との関係構築」についても、取り組みとしては評価できるが、多言語対応電子書籍を活用する「神戸モデル」の構築を目指して、さらに前進していただきたい。

・「(1)行政機関との連携」この点については、イベント開催数や展示回数も多いのですが、参加人数については、コロナ禍中の状況ですので、十分な評価はできません。また、多様な行政機関との連携が配慮されているといえます。ただ、高齢社会の現状において、一人暮らし世帯の高齢者が増加する中、アウトリーチとなっている高齢者へ読書の機会を提供するためには、福祉局との連携をもっと深めていく必要があります。「(3)大学との連携」神戸市の大学数は23であり、政令指定都市の中でも第三位であるほど多くの大学があり、学生数も約七万人ということですが、これだけ多くの大学があるにも関わらず、大学との連携はあまりにお粗末です。イベント開催数も一桁、参加者数もわずかです。確かに、大学には大学図書館がありますが、大学図書館がすべて地域住民にオープンな姿勢をとっているわけではありません。神戸市自体が神戸大学、甲南大学、神戸学院大学など市内の多くの大学と協働連携の姿勢をとっていますから、専門的図書が充実している大学との連携について、県立図書館との連携も含めて検討する必要があるのではないのでしょうか。神戸学院大学が行っている「子ども大学」などをもっと多くの大学で行うようになり、そこで、神戸市図書館も資料協力できる工夫が必要です。「(4)企業との連携」「(5)地域団体・NPOとの連携」では、働く女性や高齢者の生活を支援するNPOとの協力を図ってください。

評 価

A

4新たなサービスや機器

(1)快適便利な高機能機器の導入

・書籍消毒器の設置(未設置館順次)

令和3年度、中央・灘・垂水で設置。(東灘・北神・須磨・名谷は導入済み)

・予約図書自動受取機の利用促進

1日平均110冊貸出。前年と比較して約1.5倍の利用数。令和4年7月、三宮図書館がKIITOへ仮移転したことにより、さらに利用が伸びると思われる。

・デジタルアーカイブ等、地域資料の提供・発信の見直し

電子図書館での郷土関連情報発信・地域資料掲載を推進

図書館の広報物「KOBEの本棚」「としょ☆びか」の掲載

神戸市発行の震災資料『阪神・淡路大震災と神戸の活断層』の掲載

(2)ICT技術を活用したサービスと情報提供

・電子図書館サービスの利用促進

☞図書館カード作成者であれば利用時には来館する必要がなく、感染症対策としても有効。

出前授業(三宮)5/20 91人(4年生) 於:中央小学校

国語「図書館の達人になろう」の授業にスタッフが出向き、市立図書館や電子図書館の利用案内を行った。

利用講座「電子図書館、使ってみませんか?」の開催(灘)8月 計2回5人

電子図書館トップ画面の特集表示を随時組替え

・自動貸出機の利用促進

☞カウンターの職員と接する必要がないため、感染症対策に有効。利用券忘れを防ぐこと等を目的とする設えの改善、掲示の見直し、利用案内を行うとともに、行事と関連付けて利用促進を図った。

「図書館べんりガイド」(須磨)10/23 5人(5-(3)へ再掲)

「自動貸出機 de おみくじチャレンジ」(三宮)10/26~11/21 182人(児童向け)

自動貸出機利用者が引けるおみくじをカウンターに用意。

「オリジナルブックカバーとしおりの配布」(名谷)6/23~6/30(3-(4)の再掲)

自動貸出機利用者対象 再生資源への関心を高める取組みの一環。

「本の福袋」(中央、東灘、灘、三宮、北、新長田、名谷、垂水、西)(2-(2)の再掲)

福袋はパッケージに包まれた本を自動貸出機で借りていただくことにより、中身がわからない本を自宅に持ち帰る楽しみを得ることが出来る。

「お正月 図書館えんにち工作会」(名谷)1/16 48人(児童向け)(6-(1)へ再掲)

自動貸出機の利用促進を意図して、当日自動貸出機を利用したことを参加条件とした工作会を行った。

【図書館の自己評価】

○予約図書自動受取機について、非接触型サービスとして利用が伸びている。

△電子図書館へ、図書館作成の独自資料である「KOBEの本棚」「としょ☆びか」の掲載を始めた。今後も地域資料の提供・発信について継続して見直す予定である。

○電子図書館利用講座を行ったほか、小学校での出前授業に電子図書館の案内を加えるなど、利用促進に努めた。

○電子図書館トップ画面の特集を組みかえることで、時季に合った本を探しやすく、また借りられる本を見つけやすくなるよう工夫した。

○本の福袋イベントを実施し、自動貸出機の使用機会を増やしたほか、自動貸出機利用者を対象としたイベントを工夫して行い、利用促進に努めた。

【図書館協議会の評価・意見】

- ・予約自動受取機は利用者にとっても便利と感じ、図書館を利用するきっかけになると思われる。
- ・自動貸出機、書籍消毒器、予約図書自動受取機の設置や利用促進が概ね順調に進んでいると思われる。
- ・予約図書自動受取機、自動貸出機など職員の手を介さないサービスの拡大は、セルフレジの拡大といった社会のトレンドにマッチした事業として評価できます。これにあわせて、こうした機器にアクセスがしにくい方に対する配慮も引き続き、お願いいたします。
- ・図書館という建物をもつ機能や雰囲気は依然として市民が図書生活を送る重要な要素ですが、物理的実体に依存せず、我が家にいながら図書館を利用できる電子図書館サービスの利用促進も、利用拡大の途上においては利用数は少ないかもしれませんが、重要な事業として評価できます。
- ・三宮図書館が KIITO にいってしまって、予約図書自動受取機でしか利用しなくなりました。ただ設置場所が主要路線から少し離れ不便なのではと思います。大きいサイズの本は図書館へとなるので、やはりそれも使い勝手が悪いなと感じました。自動受け取りは今後利用が確実に増えていくと思うので、より使い勝手がよくなることを願います。
- ・電子図書館を身近に感じる PR や工夫もしていただきたい。電子書籍と紙の本にどう付き合っていくか（両方ともにそれぞれ長所があると思うので）、そういった内容のことも伝えていただきたいです。新しく開始したサービスは今後も調整を続けながら改善して行ってほしいです。電子図書館の利用者増に期待しています。
- ・1と同様に、電子図書館サービスの利用を促進するための方策が必要だと感じる。中央小学校での出前授業のように、各区で小中学生への利用案内を展開してもらいたい。
- ・図書館のホームページはもう少し親しみやすいデザインにして、より使いやすいものにしてほしい。
- ・「(1)快適便利な高機能機器の導入」として、書籍消毒器の設置（未設置館順次）、予約図書自動受取機の利用促進などが実施され、その効果を発揮していることは評価できる。ロボットの活用が不十分なので、検討すべきであろう。例えば、書架案内や蔵書点検といった新しい用途がすでに泉大津市立図書館シーブラなどで実施されているが、神戸市独自の利用者サービスを検討することも重要だろう。「(2)ICT 技術を活用したサービスと情報提供」では、電子図書館サービスの学校連携を実施すべきであろう。すでに東大阪市立図書館では、「GIGA スクール構想のタブレットを用いて『ひがしおおさか電子図書館』の利用が可能に」を実施している。学校図書館の電子資料の活用は神戸市としても喫緊の課題であり、神戸市立図書館が支援することは重要な取り組みであろう。
- ・「(1)快適便利な高機能機器の導入」「(2)ICT 技術を活用したサービスと情報提供」デジタルアーカイブ等の地域資料については、「提供・発信の見直し」というだけではなく、デジタルアーカイブ自体について、その充実が求められます。図書館自体のデジタルシフトを前提にして、紙とデジタル資料の両面での資源充実を行う上で、電子図書館サービスの利用促進が重要です。その利用のための講座受講者数が 10 人にも満たないという問題がありますが、図書館自体のウェブサイトにおいて、電子図書館の登録や利用ができるようなシステム整備が求められます。書籍消毒器や自動貸出機の整備は高く評価されますが、DAISY の利用やバリアフリーということを前提にしながら、図書館自体の資料や学習機会のオープン化を促進していく必要があります。小学校での電子図書館案内のサービスなどその利用促進への姿勢がありますから、学校図書館の電子化を支援できる連携サービスが重要となります。その点では、司書教諭や学校司書を含めて、図書館司書の研修の機会を提供してください。住民がデジタル化に対応した学習スタイルへと変化しつつある現代において、いっそう高度で広範な資料提供が求められる図書館の役割はさらに重要となります。神戸市立図書館の緊急のデジタルシフトを期待します。

評 価

B

5 利用しにくい市民への環境整備

(1)ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供

・点字図書館との連携

点字図書館連携展示による利用支援機器の紹介と点字図書館の PR 等（中央）1/12～1/30

・福祉施設等への団体貸出 PR

著作権許諾済みの視聴覚資料の中で、特に回想療法等、福祉施設等でも利用可能な資料の PR を今年度中に行い、次年度からの貸出予定。

・その他

障害のある方や母国語を日本語としない方へのサービスの提供等

「留学生版トライやるウィーク」（兵庫）9/18・9/25（3-(5)の再掲）

神戸定住外国人支援センター（KFC）絵本の読み聞かせ（新長田）

6月・10月・11月・3月 計4回37人（3-(5)の再掲）

「バリアフリー映画会」（東灘）12/19 11人

(2)ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備

・「やさしい利用案内」作成

他都市の事例などを調査・検討中。

・館内サインの見直し

地域図書館では館内表示に、ピクトグラムの活用や文字を大きくする、明るい色使いを使用した表示等の見直しを随時行っている。また、中央においては、今年度は館内設備を中心に、ピクトグラムを使用したサインの見せ方や館内案内図の見直し等を継続して行う予定である。

・利用支援機器の導入と PR

利用支援機器の PR のため、連携展示の期間中読書拡大機を1階ロビーに出し、自由に体験いただけるようにした。（中央）（5-(1)の再掲）

・大人向け多言語の利用案内作成

作成に向けて準備中。

(3)図書館を利用していない市民層への働きかけ

・利用促進をはかる館内外での利用講座、「出前トーク」の実施

「出前トーク『市政リレー講座 図書館貴重資料に見る“神戸”』（中央）11/25 44人

於：コムスタこうべ

「第9回しながた・くにづかローカル&ワールドフェスティバル」（新長田）3/27 57人

くにづかりポーンプロジェクト 於：大正筋商店街

図書館に割り当てられたブースにおいて、大型絵本や紙芝居の読み聞かせ、ブックリストの配布、参加者から寄せられたお勧めしたい本の紹介用紙の貼付などを行った。

「出張ブックトーク「本の案内しよっ」」（北）7/11 15人・10/24 11人・3/20 17人

於：ベルスト鈴蘭台（3-(1)の再掲）

「図書館べんりガイド・図書館活用講座と一箱図書館長」（須磨）10/23 5人（4-(2)の再掲）

「ちょこっと★LOVE LOVE LIBRARY～知って！使って！西図書館～」(西)10/26～11/14
配布数計 106部

☞ 毎週、図書館の使い方を学ぶ講座として開催していたが、今回は非接触で行えるよう、テキストを3種類作成し配布した。

「第10期垂水マスターズ・ゼミ第4回「図書館を使いこなす&ボランティアのいろは」」（垂水）

10/28 14人 於：垂水区文化センター（2-(1)・3-(1)の再掲）

『輝け★須磨オヤジ塾』「図書館の使い方」（名谷）12/23 13人 須磨区まちづくり課

(3-(1)の再掲)

「みんなの青空図書館」(兵庫) 11/13 約 900 人 於:御崎公園

兵庫区役所×兵庫区みらい会議 (3-(1)の再掲)

「広場をみんなで使ってみよう」(兵庫) 11/28・3/20 各約 60 人

於:JR 兵庫駅前キャナルタウン広場 都市局 (3-(1)の再掲)

「こども本の森 神戸」開館記念イベント」(中央) 3/30 資料展示・しおりを作る工作会 (220 人)

おはなし会 (49 人) 於:東遊園地 文化交流課 (3-(1)・6-(1)の再掲)

・ママフレや長田区アプリ等メディアへの情報提供

「神戸ママフレ」(市公式子育て応援 Instagram) での図書館員おすすめ絵本の紹介、子ども向け行事の案内(中央)

「ためまっぷ東灘」(東灘) 「ためまっぷ中央」(三宮) 「ためまっぷ長田」(新長田) への情報提供

エコール・リラの LINE を利用した行事等の情報提供(北神)

子育て応援アプリ「ナガイク」へのコラム(おすすめ本の紹介ほか)掲載(新長田)

・転入者へ利用案内配付

現在検討中。

・その他

ツイッターアカウント開設(令和 4 年度より運用開始)

神戸市立図書館を知り、親しみを持ってもらうこと、来館や読書のきっかけとなることを目的に、市立図書館の事業やイベントの紹介、利用のご案内などを発信。

【図書館の自己評価】

○「神戸ママフレ」や図書館が入っている施設の外部アプリ等へ情報提供することにより、市の関連だけでなく、広く情報を提供することができた。

○「みんなの青空図書館」や「広場をみんなで使ってみよう」等、他部局と協力しながら館外で本にふれる機会をつくる比較的大きな規模のイベントを開催することができた。(3 の評価の再掲)

○「読書バリアフリー法」の流れで、点字図書館との連携を検討中である。令和 3 年度は、まずは連携展示として、中央図書館にて点字図書館のチラシやパンフなどをおき、読書支援機器などの紹介や、一部機器をロビーに置いて自由に操作できるようにした。

△「やさしい利用案内」や大人向け多言語の利用案内については、作成に到らなかった。今年度も引き続き、作成の調整を進めたい。

【図書館協議会の評価・意見】

・予算や時勢の制約のなか、できることから取り組み、進めている印象を受けた。特に、(3) の図書館の外での活動(図書館を利用してない市民層への働きかけ)が良いと思う。

・Twitter の活用はとても良いと思います。電子図書館こそ利用しにくい層へのよいアプローチになるので電子図書館のみの Twitter もよいのでは。入院している人へのアプローチはどうでしょうか。

・「やさしい利用案内」や大人向け多言語の利用案内は、ぜひ作成してほしい。

・検討中、準備中の事業をすすめていただきたい。

・英語でも対応ができる窓口の設置なども、ボランティアなどの力も借りながら増やしていける工夫もお願いしたいと思います。

・プレママ、プレパパに対するイベントも、保健部局、産院などと連携して、計画していただければと思います。

・「利用しにくい」の範囲を、視覚障害の方はもちろんのこと、日本語を母語としない方、これまで図書館を利用しにくい方で広げての事業展開は評価に値すると思います。事業が拡散してしまう危惧もありますが、地域特性やニーズに応じたサービスが今後も望まれます。同じ図書館の中でも、静かに読書できる場所、乳幼児が本とふれあう場所、多様な身体的事情を持った高齢者の方が本に親しめる場所、たとえば発達障害の方が自由に本を楽しめる場所など、隔離するのではなく、多様な利用が可能な環境を用意することにもさらなる配慮をお願いします。

・「利用しにくい市民への環境整備」では、音声読み上げ機能付き電子書籍の拡充が必要である。また、多文化サービスでは、館内サインの見直しを徹底し、QRコードを利用する多言語翻訳をサイン計画に入れるなどコストをそれほどかけなくてもただちに実用化できる手段を講じるべきだろう。各館の書架にQRコードを貼付し、多言語対応を実施すべきであろう。また、「図書館を利用していない市民層への働きかけ」は神戸市の行政情報の電子書籍化が効果を発揮すると考えられる。

・「5.利用しにくい市民への環境整備」図書館のデジタル化やオープン化は、無料で本が読め、無料で学べる学習機会を、住民の経済状況にかかわらず提供し、教育機会の格差是正に大きく貢献します。「図書館を利用しにくい市民」とは、読書習慣を持たない市民や習慣があっても本を買えない市民、図書館へのアクセスができない市民を意味するのだと考えます。「ユニバーサルデザイン」に配慮した図書館利用サービスは重要ですが、図書館に来る市民へのサービスが中心となります。この数年の図書館協議会や事業計画では、ユニバーサルデザインのサービスが考慮されてきたことについては、高く評価します。しかし、他方で、「利用しにくい市民」や「図書館を利用していない市民層への働きかけ」がさらに重要となります。利用促進を図る利用講座、出前トークなどの事業もその点ではさらなる発展が期待されます。子育て支援や転入者への利用案内に加えて、物理的なアクセスができない高齢者や言語の壁を持つ外国人市民へのサービスを図る事業を期待します。

<p style="text-align: center;">評 価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>

6 子供サービスの充実と学校図書館支援

(1)生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備
イベント開催数 135 回
参加人数 2115 人

・資料収集と計画的な買替え

児童書新規購入数（4月～11月）：中央 1,876 冊（含 BM）・地域図書館 12,132 冊

・乳幼児と保護者向けサービス

「おひぎのうえのおはなし会」等の乳幼児向け定例おはなし会
（中央・東灘・灘・兵庫・北・北神・新長田・須磨・垂水）
「だっこでおはなし」（中央・東灘・三宮・兵庫・北・北神・新長田・須磨・垂水・西）
児童館、地域子育て応援プラザ等に出向いて、乳幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紹介を行うプログラム。
「はじめのいっぽツアー（兵庫コース）」（兵庫）4/23 7組
兵庫区社会福祉協議会連携。助産師、保健士、保育士のアテンドによる区内子育て関連施設を巡るツアー。図書館では、おひぎのおはなし会、簡易版すくすく赤ちゃんセミナー等を実施。
「すくすく赤ちゃんセミナーオンライン」（中央）7月 55組・9月 46組・11月 38組・1月 52組
こども家庭局主催 Zoom 生配信による乳児と保護者向け講座。図書館は「絵本の楽しみ方」をレクチャー
☑昨年度に引き続きオンラインにて全市共通で実施。（例年は各区役所で対面実施）
「すくすく赤ちゃんセミナー」（三宮）3/15 7組・（新長田）1/12 4組・3/10 12組（垂水）3/10 10組
「すこやかくらぶ」（東灘）10/19 13組 於：北青木児童館
北青木児童館からの依頼を受け、読み聞かせ、手遊び、『えほんの小箱（0～2才用）』の配布などを実施。
「パパのおひぎ DE おはなし会」（北）11/21 4組
スタッフによるおはなし会と男性保健師を囲んで子育て情報の交換等の交流会。北区こども家

イベント開催数 385 回
参加人数 6,035 人
展示の回数 378 回

庭支援課との連携事業。

「パパのほくほくおはなし会」(北神) 11/28 10組

「あおぞらプラザ」(西) 4月 20組・10月 5組・11月 11組・12月 5組・1月 11組 於: 思い出広場

「あおぞらひろば」(新長田) 11/24 40組 於: 長田区役所芝生広場

☞ コロナ禍に対応した屋外イベント。地域の子育て支援団体と連携、絵本の読み聞かせや図書館の紹介を行った。

「ほのぼのひろば」(新長田) 6月 2組・7月 2組・11月 2組・12月 3組

地域子育て応援プラザ長田と図書館スタッフによる絵本の読み聞かせ、手遊び歌、育児相談。

「おはなしゆりかご」(兵庫) 1/13 5組

神戸市地域子育て支援センター兵庫の保育士による育児に関する話やふれあい遊び、図書館スタッフによる本の紹介や絵本の読み聞かせ。

「絵本の講座「絵本を楽しもう！」」(兵庫) 12/8 5組 於: 松原児童館

乳幼児の保護者に向けて絵本の選び方についてのアドバイスや案内。

「おうちで楽しむ絵本の選び方～孫と絵本を楽しもう～」(東灘) 1/19 大人7人・子供1人

NPO法人「絵本で子育て」センターの絵本講師安達光生氏による絵本の読み方・選び方についての入門講座。

・館内外での子供と本をつなぐイベント

◇図書館内

定例のおはなし会(全館(名谷は8/1から試行開始))

☞ 感染対策(マスク、フェイスシールド着用、透明パネルの設置。人数削減、換気・消毒)のうえ実施。一部おはなし会は回数・時間削減。緊急事態宣言発出中は休止。

<夏休み行事等>

「アニメーション」(灘) 7/4 8人

「オススメの本おしえます」(三宮) 7/8～8/31

利用者(児童)におすすめの本を書いてもらった用紙を掲示し、同時に読書感想文向きのオススメ本も展示。

「アニメーション～本であそぼう!～」(新長田) 7月・10月・11月・1月 計4回41人

「てづくりサマーフェスタ「親子で万華鏡」」(西) 7/18 10人

「スタンプラリーお宝だいぼうけん11」(西) 7/20～8/31 348人(3-(1)の再掲)

埋蔵文化財センターとの共催。連携した資料展示も同時開催した。

「クイズラリー～助けて!ヒーロー～」(新長田) 7/21～8/20 63人

「手づくりきんぎょつかまえた!」(北) 7/22 16人

「スイカレター作りに挑戦だ!」(北神) 7/25 36人

「こわい本をよんでおばけを作ろう おうちで工作会」(兵庫) 8/3～8/31 10人

☞ 図書館で、こわい本を借りた子供の先着10名に、お家で作れる工作キット(おばけ各2種類を選択)をプレゼント。

「親子工作会「牛乳パックでマジックボックスをつくろう!」」(中央) 8/6 13人

<読書週間行事>

「どんな本にであえるかな?～本の福袋～」(中央) 10/22～11/19 188袋、272冊(2-(2)の再掲)

☞ 滞在時間の短縮、各自で自由に参加できるイベントとして計画。コロナ禍で利用者とのやりとりも控えざるを得ない部分もある中で、職員のおすすめ本を紹介して多くの人に借りてもらおうという「つながり」を生み出す事ができた。

「おはなしビンゴに挑戦しよう!」(中央) 10/22～11/14 配布56枚

ビンゴカードに書かれたキーワードの本を読んでスタンプを集める。

「新聞紙でキッズテントを作ろう」(須磨) 10/30 9人

☞ おうち時間を楽しめるように、自宅に持ち帰った後に各自で発展させることができるものを意図した。

「おうちで作ろう！かぼちゃおぼけ」（兵庫）10/30～10/31 10人
☞ハロウィンにちなんだ自宅で作れる工作キットを館内で先着10名に配布
「キングオブブック」（名谷）10/20～1月末 台紙の配布枚数：59枚
☞名谷図書館で選定した課題図書掲載の台紙を配布し、課題図書の中から5冊・15冊読了時に
参加賞を渡す。個人のペースで参加するため密になることなく多くの方に参加いただけた。
（台紙の配布は11/21で終了、チャレンジ期間は1月末までに設定。）
「工作教室「マイバッグを作ろう！」」（灘）11/6（2回）19人
「ワークショップ「アニマルカリモク」」（名谷）11/7（3回）37人（3-(4)の再掲）

<12月以降>

「知ろう 備えよう 防災工作教室」（須磨）1/15 16人
「お正月 図書館えんにち」（名谷）1/16 延べ 216人
館内の多目的スペースで「工作会」（4-(2)の再掲）、「わなげ」、「魚釣りゲーム」を「図書館えんにち」として行った。
「開館一周年記念 ワークショップ「オーナメントを作ってかざろう！」」（名谷）3/26～3/27
計127人 コウペノモリト（3-(4)の再掲）

◇図書館外

「出前おはなし会」（北）4月・7月・10月・11月・12月・1月・2月・3月 計8回55人 於：NPO法人ポプリ
「ふたばえほんの会」（新長田）4月・7月・10月・11月・12月・1月 計6回48人 於：ふたば学舎
図書館スタッフによる絵本の読み聞かせと本の紹介
「まめおはなし会」（須磨）4月・5月・6月・10月・12月・1月・2月・3月 計8回48人 於：たかとり児童館
「親子で楽しむ料理教室」（西）6月・1月 計2回12人 於：玉津南公民館
6月は「おはなしたべちゃえ！パンケーキ編」、1月は「同クリームシチュー編」として、おはなしに登場する料理を作り試食した。
【はじめてパンケーキを作っておいしかったよ。私が先に食べて、そのあとパパが食べて、パパも「おいしい」って言ってました。】
「こどもワクワク食堂での読み聞かせ」（兵庫）
6月・7月・8月・10月・12月・1月・3月 計7回92人 於：こどもワクワク食堂
「「みる・きく・さわる」～“りか本”のよみきかせワークショップ～」（三宮）
6月・9月・12月・3月 計4回41人 於：バンドー神戸青少年科学館
図書館スタッフによる理科・科学関係のテーマに関する絵本の読み聞かせと、科学館スタッフによる内容に関連した実験・工作。
「須磨図書館出張掲示板」（須磨）7/21～8/31 於：須磨体育館
「神戸アートビレッジセンター「こども図書コーナー」設置の支援」（兵庫）8/1～8/20
於：神戸アートビレッジセンター
文化交流課の社会実証実験に協力し、兵庫図書館が選書した本300冊、ダンボール面展台4台の貸出、コーナー作りへの助言等を行った（期間中にコーナーを利用したのは約120人）
「夜の出張図書館「紙芝居さらやしきのおきく読み語り」」（兵庫）8/7・8/8 計190人
（参加人数はフェスタの参加人数）於：兵庫駅南公園
兵庫駅南公園こどもフェスタ実行委員会主催の第9回兵庫駅南公園こどもフェスタ「公園きもだめし」に参加。兵庫図書館はランプの灯り等で怖い雰囲気作りを行った会場で紙芝居を上演した。
「空気のおもしろ実験ショー・おはなし会」（須磨）8/8 103人 於：須磨文化センター大ホール
「映画になった世界の本 本になった世界の映画」（新長田）10/15 14人 於：ふたば国際プラザ
神戸定住外国人支援センターが主催して上映する映画『ズートピア』について小説化・絵本化されたものを基に紹介した。また、映画になった絵本の読み聞かせや展示を行った。
「「キッズクッキング～ハロウィン弁当づくり～」での出前おはなし会」（東灘）10/30 33人
於：東灘区文化センター8階料理教室（3-(5)の再掲）

イベント開催数 15回
参加人数 713人
展示の回数 6回
パスファインダー作成
13部

「巨大クリスマスツリーデコレーション@兵庫図書館」(兵庫) 12/5 80人 於:兵庫駅南公園
兵庫駅南公園こどもフェスタ実行委員会主催行事。兵庫駅南公園のメタセコイア杉に高所作業車を使って、子供たちと一緒にクリスマスの飾り付けをした。図書館はクリスマス関連の本の展示、ミニクリスマスツリー作成のワークショップを行った。

「みんなで作る!こどもフェスタ in 和田宮さん@兵庫図書館」(兵庫) 12/12 468人 於:和田神社
兵庫駅南公園こどもフェスタ実行委員会主催行事。「遠矢浜釣り遊び」ブースとして参加したグループ「カルチア派」と協力し、兵庫図書館は関連したSDGS 関連(リサイクル、ゴミ問題)の本を中心に展示した。

「こども本の森 神戸」開館記念イベント」(中央) 3/30 資料展示・しおりを作る工作会(220人)・おはなし会(49人) 於:東遊園地 文化交流課(3-(1)・5-(3)の再掲)

・小・中学生への調べ学習支援(調べ学習イベント、パスファインダー作成等)

「「図書館を使った調べる学習コンクール」レプリカ&関連本展示」
(東灘・灘・新長田・須磨・垂水・西) 7月~8月

「としょこちゃんの自由研究応援コンシェルジュ」(兵庫) 7/20~8/31
夏休みの自由研究の手引きとなるミニパスファインダー16種を新たに作成。「夏のお助け本集合」の資料展示スペースに設置し配布した。

「自由研究応援講座「図書館で調べよう」」(中央) 7/30 2人
本の探し方、事典や図鑑の使い方を学んだ後、テーマを決めて実際に本を使って調べる。

「自由研究講座」(垂水) 8/4 3人

『親子新聞教室』連携:神戸新聞社 ※下記は内訳

→「夏休み!親子新聞教室」(垂水) 8/6 5人
→「てづくりサマーフェスタ「親子新聞教室」」(西) 8/14 12人
→「NIE 親子新聞教室」(須磨) 11/20 4人
神戸新聞社の号外発行車“めぐる君”で、子供達がまとめた号外新聞を発行する体験。

「調べ学習「クリアスライムのふしぎ」」(北) 8/7 5人

「宇宙を知ろう~science labo~ターゲットマーカーを作ろう」(名谷) 8/15 5人

「プログラミング体験講座「ロボット『こくり』は動くかな?」」(東灘) 10/30 10人

「図書館など解きイベント「ひゃっか王からの挑戦状」」
(東灘 192人・三宮 130人・須磨 174人・垂水 35人・西 120人) 7月~11月
百科事典を使ったなぞ解きクイズラリー。

「スクラッチを使ってプログラミングに挑戦」(北神) 10/30 15人 連携:パソコンスクールあすか

イベント開催数 3回
参加人数 35人
展示の回数 205回

・YAコーナーの充実を中心とした青少年層への読書推進

「「10代のための」POP コンテスト@ほくしん」(北神)
3/2~5/16 POP 応募数 21 投票数 163票
8/3~10/17 POP 応募数 11 投票数 229票

「to youth...よんどく?」掲示(新長田) 毎月
長田区文化センターユースステーション内掲示版にて図書館員おすすめのYA向け図書の紹介。

「ぶらっと一言コーナー」(新長田) 毎月

「ほんのわ」発行(北) 毎月 館内とすずらんだい児童館にて配布

「YA向け!紹介されると読みたくなる本」掲示(北神) 毎月

「おたよりコーナー」(西) 毎月

「YA向け読書案内「なによも」」を新規発行(新長田) 2月~

「ブックトーク「ヤングクッキング~食とSDGs~」」(東灘) 3/26 3人(3-(5)の再掲)
於:東灘区文化センター8階料理教室 東灘マスターズ(食親同好会)

・学校と連携した中高生参加のイベント

イベント開催数 4回
参加人数 166人

「本のお楽しみ袋 by 御影高校」(東灘) 7/7~7/31 10袋展示
県立御影高校2年生の生徒達が選んだ本を福袋という形で展示、貸出に供した。

展示の回数 7回

「あなたの「押し本」教えてください」（北）8/1～12/28 POP参加人数：60人
大原中学校・広陵中学校・鶴台中学校・桜の宮中学校分校の生徒が作成した本のPOPを展示し、来館者に投票してもらった。投票後は、投票数の多かった人気のPOPを本とともに展示した。

「高校生POP展示『本しか勝たん。』」（垂水）1/18～2/27
兵庫県立伊川谷北高等学校の校内POPコンクール作品のPOP48作品と本の展示。

「ショーケース展示「吉田中学×兵庫図書館 おすすめの本の紹介カード展示」」（兵庫）1/4～1/30
神戸市立吉田中学校の広報委員作成の本の紹介カード（POP）13枚を展示。

「ショーケース展示「青春短歌-定時制高校生が詠む-短冊に熱き想いうたいあげ」（兵庫）2/1～3/21
神戸市立楠高等学校・定時制の生徒の詠んだ短歌18枚を展示。

「本の帯つくりました！図書委員のおすすめ本」（中央）2/1～3/6
神戸山手女子中学校高等学校の図書委員が作成した本の帯を添えた連携企画。

「伊川谷高校ブリマヴェーラ・フェスタ」（垂水）3/27 106人 於：垂水区文化センター多目的ホール
県立伊川谷高校の生徒が演劇（演劇部）、SDGs人形劇（ボランティア部）、演奏（吹奏楽部）の成果発表を行う場を企画・提供した。併せてSDGs関連本の展示も行った。

(2) 学校園との連携

・団体貸出による資料提供

「テーマ本集め」（全館） 貸出回数：348回
「総合学習用図書」の貸出（中央） 貸出回数：178回

・幼稚園巡回図書の実施

市立幼稚園 28園 私立幼稚園 14園 年3回の巡回（中央）

・学校図書係と連携した研修など、学校司書支援

学校司書新規採用研修（中央） 4/14 24人
学校司書ブロック別研修（オンライン）6月に4回実施 計150人（中央・地域館）

・教員・学校司書への新刊紹介等、情報提供

児童書新刊案内「としょびか」の配信（中央）
学校司書研修会での図書紹介（中央・地域館）

・その他

高校出前授業「絵本の読み聞かせ講座」 夢野台高校（兵庫）、須磨友が丘高校（須磨）、伊川谷北高（垂水）
小学校からの見学受入
☞ 密集を避けるため1クラスごとに分散して受入。
「出前授業」（東灘、三宮、垂水、西）
図書館見学の代替として実施。
☞ 館内の混雑を避けるため、昨年度に引き続き出前授業の形での実施を小学校へ提案。館内写真を多用したスライドを上映。
「グローバル読書の会」（新長田）10月・11月 計2回 44人 於：駒ヶ林小学校

(3) 子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援

・ボランティア団体との連携企画

「おはなし会」等の定例行事でのボランティア導入・連携 …全館で30団体が活動
「夏休み特別おはなし会」（中央）7/29 大人12人 子供19人 …こうべ子ども文庫連絡会との共催

・ボランティア交流会の開催

「ボランティアスキルアップ講座：ボランティア交流会」（中央）3/17 27人

・読み聞かせ等、活動に役立つ講座の開催や新刊本等の情報提供

「ボランティアスキルアップ講座：2021年のこどもの本紹介と展示」（中央）2/24 30人

【図書館の自己評価】

○昨年度に引き続き、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の対応のため一部行事の休止期間があったが、コロナ対策を徹底しながら、館内型のイベントから館外に出る連携イベントまで多様なイベントを実施することができた。特に、兵庫図書館でのこどもフェスタ実行委員会との連携行事等は、区内のあちこちで行うことにより、地域の活性化及び地元への関心を深めることができたと思う。

○学校と連携した中高生参加のイベントでは、例年中学校との連携が多かったが、「高校生POP展示『本しか勝たん。』」（垂水）や「ショーケース展示『青春短歌-定時制高校生が詠む-短冊に熱き想いうたいあげ』（兵庫）等、令和3年度は高校との連携も多く、参加型イベントに限らず学生が主体のイベントを実施することができた。

○令和2年度の協議会でご提案いただいた、STEAM教育につながるイベント「プログラミング体験講座「ロボット『こくり』は動くかな?」（東灘）や「宇宙を知ろう～science labo～ターゲットマーカーを作ろう」（名谷）等も、引き続き各館で取り組み、回数を増やしている。

今年度も引き続きコロナ対策を行いながら、従来型のサービス提供と同時に、オンラインを使った情報発信や、イベント等も引き続き進めていきたい。

【図書館協議会の評価・意見】

・乳幼児と保護者向けの読み聞かせやおはなし会、子供と本をつなぐ図書館内外でのイベントは、非常に充実した印象を受けた。

・コロナ感染状況下にもかかわらず、乳幼児から高校生に至るまでの子供たちに対する数多くのイベントの実施は高く評価できます。図書館にとどまらず、アウトリーチサービスを進めることは電子図書館サービスとは異なり、図書館サービスが身近にやってくるという対面サービスとして意味が大きいと思われまます。

・兵庫図書館でのこどもフェスタ実行委員との連携行事においては、誠にありがとうございました。区内で活動している兵庫区連合婦人会の会長として、またこどもフェスタに出展参加している婦人会の代表としても、こどものため、地域を盛り上げていただき、とても感謝しています。きっと図書館を身近に感じるはずで。このように学校関係だけでなく、地域にまで手広く実施されることは大変だと思いますが、頑張ってくださいたいです。

・学校司書研修など学校図書館運営推進のために今後も連携・協力を推進していただきたい。

・小・中学生への調べ学習支援は参加者数の少ない講座や教室があるのが残念。PR、参加の呼びかけは十分だったのだろうか。

・学校と連携して、中学生や高校生を巻き込んだ企画をこれからもすすめていただきたい。また中高生からの声も届けてほしいです。

・本離れが進んでいる中高生の読書を推進するための取り組みをもっと力を入れてほしい。御影高校、伊川谷高校、北図書館の「推し本」などの取り組みなどがとても良いと思うので、各図書館で今後もっと広がっていくことを期待したい。

・「(1)生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備」乳幼児から保護者、青少年にわたる読書環境の整備という点では、非常に充実した成果がみられ、高く評価できます。「(2)学校園との連携」小学校から高校にいたるまで、学校ではこの数年で生徒一人一台端末の整備が進み、学校図書館は、読書センターとして機能だけではなく、情報センター、学習センターとしての機能の向上が求められています。学校図書館のデジタルシフトを支援するためには、市立図書館の電子図書館としての機能の早急な対応が求められていきます。各学校での調べ学習支援に関しては、紙媒体の学習支援としては十分なものが行われていると評価できますが、調べ学習のイベントやバスワインダーの作成等においても、電子化を前提とした学校図書館支援のサービスの早急な提供が求められます。学校司書研修会でも、デジタル時代の学校図書館を前提にした研修が求められます。神戸市では、学校司書マニュアルを小学校版、中学校版と作成されましたが、その改訂が求められます。「(3)子供の読書活動推進

に関わるボランティア等との連携や支援」この点についても、今後は、電子図書館や電子書籍利用に関する内容の研修が求められます。

・子供サービスについては、これまでの子どもと読書の観点からだけでなく、STEAM=Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学・ものづくり)、Art (芸術・リベラルアーツ)、Mathematics (数学) の観点からさまざまな情報を生産、流通、利用する子ども像への転換が必要であろう。具体的には、デジタル絵本の制作やプログラミング学習の提供など、図書館が子どもたちの情報行動に積極的に関与し、プロデュースする役割を担う必要がある。また、学校図書館支援で現在、もっとも重要なことは GIGA スクール構想に対応した電子資料の取り扱いに関する公共図書館からの支援である。具体的には、公共図書館が契約している電子図書館サービスを学校図書館が利用できるように契約内容を見直し、さらに学校のカリキュラムに沿った電子資料の提供が必要だろう。神戸市内で利用されている小学校の社会科副読本をデジタルアーカイブ化し、神戸市のさまざまな情報源とリンクさせ、児童が自分自身のデバイスで電子資料を検索、利用し、プレゼンやディベートができるように支援することが考えられる。

評 価

A